

# KORG

## SV2

STAGE VINTAGE PIANO

# ユーザー・ マニュアル



# 安全上のご注意

## ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

## マークについて

製品には下記のマークが表示されています。



マークには次のような意味があります。






このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

### 図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

## 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。



- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。  
感電やショート恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
    - 電源コードやプラグが破損したとき
    - 異物が内部に入ったとき
    - 製品に異常や故障が生じたとき
- 修理が必要なときは、お客様相談窓口へ依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけたりしない。また、電源コードの上に重いものをのせない。  
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。  
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管をしない。
- 振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管をしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。



- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管をしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

# ⚠️ 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性  
または物理的損害が発生する可能性があります。



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。  
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。  
本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品の移動時は、本体とスタンド（別売り）を別にし、必ず2人以上で持ち上げる。



- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。  
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。  
付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線しない。  
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。  
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。  
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。  
本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。  
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

## ご注意

### オート・パワー・オフ

電力消費を抑え、バルブを長持ちさせるために、演奏およびボタンやノブの操作を行わない状態が2時間続くと、SV-2はデフォルト設定により自動的にスタンバイ・モードに入ります。編集したデータがある場合は、あらかじめ保存してから操作を停止してください。

### 真空管について

真空管の寿命は一定ではありません。真空管が切れた場合は、お客様相談窓口へお問い合わせください。真空管の交換を含むあらゆる修理や、その他調整は専門家にご依頼ください。

### データの取り扱い

誤った操作等により、メモリー内のデータが消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ付属のエディター/ライブラリアン・ソフトウェアへセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

また、本製品の使用に伴い、メディアに書き込んだデータの消失、破損などの、お客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

### 著作権について

著作権者から許諾を得ていない著作物を、個人、家庭内、またはその他のこれに準ずる限られた範囲以外で使用した場合、著作権侵害となり、損害賠償を含む補償を負う場合があります。

そのような著作物を録音したのももちろん、著作物に手を加えて作られたものにも、著作権者の権利が含まれています。これら成果物の転載、配布などは、著作権侵害となります。

著作権侵害によって発生した損害賠償などは、当社は一切の責任を負いかねます。

本製品に内蔵もしくは同梱されたコンテンツそのものを取り出し、または酷似した形態で記録もしくは録音して、配布やインターネット上で公開することは許されていません。

本製品のコンテンツ(音色プログラム、スタイル・データ、伴奏パターン、MIDIデータ、PCMサンプル・データ、オーディオ・データ、オペレーティング・システムなど)の著作権は株式会社コルグに有するか、または株式会社コルグが第三者から使用許諾を受けている著作物です。

上記コンテンツを使用して、作品を制作または演奏し、それらを録音、配布することについては、当社の許諾を必要としません。

### 免責条項

本取扱説明書に含まれている情報については細心の注意を払い、慎重に修正およびチェックが行われています。製品の改善については継続的に取り組んでいるため、仕様が取扱説明書の記載とは異なる可能性があります。すべての仕様は、予告無く変更することがあり、当社は取扱説明書の内容と仕様が異なる場合については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

### 製品のアップデート

お手持ちの機器を常に新しいオペレーティング・システムに更新するアップデート・バージョンは当社からリリースされます。オペレーティング・システムは当社のウェブサイトからダウンロードすることができます。オペレーティング・システムについての説明事項を読み、その指示に従ってください。

### 登録商標

すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

# 目次

安全上のご注意 .....	i
<b>SV-2 .....</b>	<b>1</b>
<b>イントロダクション.....</b>	<b>2</b>
はじめに.....	2
演奏を始める前に.....	2
おもな特長 .....	4
Real eXperience .....	6
Valve Reactor技術とは .....	7
<b>各部の名称と機能 .....</b>	<b>8</b>
フロント・パネル .....	8
リア・パネル .....	9
接続.....	11
<b>SV-2の電源をオンにする .....</b>	<b>13</b>
電源のオンとオフを切り替える.....	13
マスター・ボリュームを調整する.....	15
デモ・ソングを聴いてみよう .....	15
<b>サウンドを演奏する.....</b>	<b>16</b>
「サウンド」とは.....	16
ファクトリー・サウンドとフェイバリット・サウンド .....	16
ファクトリー・サウンドを選択する.....	17
フェイバリット・サウンドを選択する.....	18
サウンド・リスト.....	19
<b>エフェクトを使用する .....</b>	<b>25</b>
エフェクト .....	25
エフェクトのエディット.....	26
<b>保存、リセット.....</b>	<b>31</b>
設定をデフォルト値に戻す.....	31
エディット中にサウンドまたはエフェクトを切り替える.....	31
変更したサウンドを保存する .....	31

高度な設定 .....	33
設定ボタン .....	33
マスター・チューンを調節する .....	33
トランスポーズ .....	33
チューニング・カーブを選択する .....	35
プログラム・レベルの調節 .....	35
スプリット・ポイントの変更 .....	36
タッチ感度の変更 .....	36
MIDIチャンネルの設定 .....	37
ローカル・オフ機能 .....	38
MIDIの音が止まらないときは .....	38
ペダルのキャリブレーション .....	39
コントロール・パネルのロック .....	40
工場出荷時の設定に戻す .....	40
オペレーティング・システム・バージョンの確認 .....	41

## SV-2 EDITOR. .... 43

SV-2 Editorについて .....	44
エディターとは? .....	44
ソフトウェアをインストールする .....	45
SV-2付属のソフトウェア .....	45
動作環境 .....	45
KORG USB-MIDIドライバーをインストールする .....	45
SV-2 Editorをインストールする .....	46
SV-2 Editorを実行する .....	51
SV-2とコンピューターをUSBで接続する .....	51
SV-2の電源をオンにする .....	51
SV-2エディターを起動する .....	52
SV-2エディターの概要 .....	53
メイン画面 .....	53
メニュー .....	53
サウンドの名前 .....	54
COMPAREボタン .....	54
ページ .....	54
サイド・パネル .....	55
ノブ .....	55



エディット作業の流れ.....	57
サイド・パネル.....	58
ファクトリー、フェイバリット、カーブ・リスト.....	58
リスト・コマンド.....	59
Soundページ.....	62
基本パラメーター.....	64
Equalizer セクション.....	66
Pedalsセクション.....	66
TOUCHセクション.....	67
TUNING CURVEセクション.....	68
FX ページ.....	70
エフェクト・チェイン.....	71
EQUALIZERセクション.....	72
PRE FXセクション.....	73
アンプ・セクション.....	78
Cabinetセクション.....	83
モジュレーション・エフェクト・セクション.....	88
アンビエント・エフェクト・セクション.....	92
TOTAL FXセクション.....	96
Globalページ.....	98
マスター・チューンとトランスポーズ.....	99
MIDI.....	100
ペダル・キャリブレーション.....	101
工場出荷時の設定に戻す.....	103
INFO.....	103
Backupページ.....	104
バックアップ・ツール.....	104
バックアップ・セットの作成とエディット.....	107
バックアップ・セットのデータを内蔵メモリーへコピーする.....	108
複数のバックアップ・セットからサウンドを選ぶ.....	108
フェイバリット・サウンドの順序を変更する.....	109

メニュー .....	110
Fileメニュー .....	110
Editメニュー .....	111
Optionメニュー .....	112
Aboutメニュー .....	113
キーボード・ショートカット .....	114

## 付録 .....

プログラム .....	116
保存される設定とその保存先 .....	119
故障かな?とお思いになる前に .....	120
仕様 .....	121

**SV-2**

# イントロダクション

## はじめに

このたびは、コルグ・ステージ・ビンテージ・ピアノSV-2をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。SV-2を使用し、往年のビンテージ・ピアノやビンテージ・エレクトリック・ピアノのサウンドの質感を十二分にお楽しみください。

SV-2を末永くお使いいただくためにも、取扱説明書（クイック・ガイド、ユーザー・マニュアル）をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。読み終わったら、取扱説明書をお手元に保管しておいてください。後で読み直すと、前回には気づかなかったヒントが見つかるかもしれません。

このガイドはSV-2の88鍵と73鍵のスピーカー搭載モデルと非搭載モデルを対象としています。鍵盤数、スピーカー、質量を除けば、この4つの製品に違いはありません。

## 演奏を始める前に

### パッケージに含まれるもの

お買い上げのSV-2の梱包箱に以下のものが入っていることをお確かめください。

- SV-2 ステージ・ビンテージ・ピアノ
- クイック・ガイド
- 譜面立て
- コルグ DS-2Hダンパー・ペダル（ハーフ・ペダル対応）
- 電源コード

## ダウンロードできるもの

コルグ・ウェブサイト( [www.korg.com](http://www.korg.com) )へアクセスして、SV-2 Editorソフトウェア、KORG USB-MIDIドライバー、アップデート、さまざまなサポート情報や、SV-2ユーザー・マニュアルをダウンロードすることができます。

## 追加できるもの

SV-2を購入した後、以下のアクセサリー（別売り）を追加することができます。

- コルグST-WLまたはST-SV1-BKキーボード・スタンドは、安定性、快適さと共にエレガントなデザインで、ピアノと完璧にマッチする最適なスタンドです。

**注意:**SV-2でスタンドを使用するときは、必ずST-WLまたはST-SV1-BKを使用してください。他のスタンドを使用すると、転倒してけがをする恐れがあります。

- コルグDS-1Hダンパー・ペダル、PS-1とPS-3ペダル・スイッチ、EXP-2フット・コントローラー、XVP-20ボリューム/エクスプレッション・ペダル・ペダル等を追加することができます。
- 実用的で丈夫なCB-SVキャリング・バッグ。

## おもな特長

### さまざまなビンテージ・サウンド

- SV-2は**グランド・ピアノ**や**ビンテージ・エレクトリック・ピアノ**に、**ビンテージ・アンプ**、**ストンプボックス**および**スタジオ・エフェクト・シミュレーター**を組み込みました。クラシカルとビンテージ・サウンドを満載した楽器の宝庫であり、キーボード・プレーヤーのための鍵盤楽器の完全なデータベースです。
- SV-2には、4つの**コンサート・グランド・ピアノ**、**ビンテージ・エレクトリック・ピアノ**、**シンセサイザー**、**アップライト・ピアノ**、**ハープシコード**や**パイプ・オルガン**など、歴史的な鍵盤楽器の**さまざまな音色**が用意されています。サウンドを好みに合わせてエディットして、64個の「Favorite」メモリーとして本体に保存することができます。

### 簡単操作で楽しく演奏

- サウンドの選択は、ノブで**サウンド・タイプ**を選択してから、もう一つのノブでそのバリエーションを選ぶという**簡単な**操作です。サウンドのエディットは、リアルタイムでいくつかのノブを回すだけです。
- 高品質なリアル・ウェイトド・ハンマー・アクション3鍵盤 (RH3 日本製) を使用しています。低音部ではより重く、高音部ではより軽いタッチになるようにハンマーが4段階の重さに分けられています。これによりグランド・ピアノの鍵盤のような**リアルな弾き心地**を楽しむことができます。また打鍵の強弱による音量変化を、8種類の**タッチ・カーブ**から選択することができます。
- 各サウンドは、最大3つの音色を重ねた**レイヤー**、または高音域側で最大2つの音色、低音域側で1つの音色に分けた**スプリット**によって演奏ができます。
- アンプ・シミュレーターをオフにしたときは、サウンドから別のサウンドに**滑らかに移行**します。
- 8種類の**チューニング・カーブ**により、ビンテージ・エレクトリック・ピアノやグランド・ピアノの調律を再現できます。
- **トランスポーズ**機能で移調を、**マスター・チューン**機能で基準ピッチの微調整が行えます。

### 充実したペダル機能

- **ダンパー・ペダル**は、アコースティック・ピアノの弦の自然な共鳴や、ペダルによるノイズ音までをも**シミュレート**します。また、ペダルを踏み込む深さで、ダンパーのかけ具合を変化させることができます（「**ハーフ・ペダル**」機能）。
- SV-2には、グランド・ピアノと同様に**3つのペダル**を接続することができます。また、ペダルを使って、ボリューム、ロータリー・スピーカーの**スロー/ファースト**、**ワウ・エフェクト**をコントロールできます。ペダルでコントロールできる効果は**あらかじめ割り当てられているため**、新たに設定する必要はありません。

## 高品位のビンテージ・エフェクト

- SV-2は**Valve Reactor**技術が採用されています。これは本物の真空管を用いて往年のチューブ・アンプ・サウンドを作り出し、オリジナル・アンプのような反応や音色を再現します。
- SV-2は最先端の**モデリング・テクノロジー**により、クラシック・アンプ、キャビネット、エフェクトを駆使したサウンドを実現します。これらを組み合わせると、今までに聞いたことも無いようなバラエティ豊かな音を作り出すことができます。
- SV-2には**高品位のエフェクト**が組み込まれているため、本機だけでサウンドを完成させることができます。ペダル・エフェクト、アンプ・モデル、モジュレーション・エフェクト、ヤリバープ/エコー/ディレイ・エフェクトのタイプを1つずつ選び、それぞれを同時に使うことができます。
- SV-2の**コントロール・パネル**の各種ボタンで、タップ・テンポによるディレイ・タイム設定、エフェクトのオン/オフ、ロータリー・スピーカーの回転スピード（ファースト/スロー）を切り替えることができます。ライブ・パフォーマンスには欠かせない機能です。

## 簡単な接続

- **USB DEVICE 端子、MIDI IN、OUT**端子を備えているため、SV-2はシステムの拡張やさまざまな使用方法が考えられます。USB DEVICE 端子はMIDIデータがやり取りできるため、専用のMIDIインターフェイスがなくても、ケーブル一本でSV-2をコンピュータに接続できます。
- シーケンサー、DAW、楽譜作成ソフトを使用するときには**Local Off**ボタンを押すだけで簡単にSV-2をマスター・キーボードとして設定できます。

## エディット機能の強化

- 本機は、簡単にエディットできるように設計されていますが、**SV-2 Editor** (当社ウェブサイトからダウンロード)を使用することでより細かなエディットが可能です。
- SV-2 Editorを使用することで、コントロール・パネルには収めきれない**多数の追加音色**にアクセスすることができます。好きなプログラムで自由にサウンドを作り出してください! SV-2 Editorにより、コントロール・パネルに用意されていない**多数のパラメーター**にアクセスできるようになります。さまざまな音色によるレイヤーやスプリット作成、ペダルのキャリブレーション、他のグローバル・パラメーターを、最も簡単な方法で設定できます。
- このソフトウェアを使用することで複数のサウンド・**コレクション**を作成し、パフォーマンスの前に読み込ませておくことができます。自分の作成したサウンドを**フェイバリット・サウンドのライブラリー**として保存することができるため、他のユーザーと交換することができます。

## 自然な方法で聴く

- **SV2-735、SV2-88S**に組み込まれている**アンプ・システム**は、コルグとユニークなオーディオ・ソリューションを提供するK-array社との共同開発によるものです。
- 高性能内蔵スピーカー (SV2-735、SV2-88S)のサウンドは最も低い音量レベルでも明瞭で楽しむことができます。もう一方のダイナミック・レンジに関しても、パッシブ・ラジエーターが最もパワフルなサウンドを再現します。

## Real eXperience

### かつてないサウンド体験

SV-2のサウンドの特長であるコルグの Real eXperience技術は、豊かなリアル・サウンドを実現します。これまでのサンプリング技術をオーディオの「スナップ写真」とすると、我々の技術は「ホログラム」により近く、サウンドの各次元を詳細かつ正確に再現します。グランド・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、クラビ系楽器の音は、本物のサウンドのイメージをそのままに、ハンマー音および実際のリリース音も含めてサンプリングされています。また、楽器の表現力を高めるために、ダイナミクスについても複数のレベルでキャプチャーしました。

グランド・ピアノを例にしてみましょう。SV-2では鍵盤を離れた時の音や、ハンマーが戻る音、弦のダンパーの共鳴などを再現し、演奏の微妙な陰影までも表現します。こうした細部へのこだわりが、新しいSV-2のサウンドの特長です。プレーヤーのタッチに込められたニュアンスをとらえ、演奏の意図を的確に表現できます。

この技術は他の音色についても同様に採用されています。例えば、エレクトリック・ピアノ、クラビ系楽器、オルガンでは、どの音色もリアルな響きが再現され、合成的あるいは生命を感じられない音質ではありません。これらのサウンドは本物の楽器とまったく同じように指のタッチに反応し、ステージでのパフォーマンスを引き立てます。



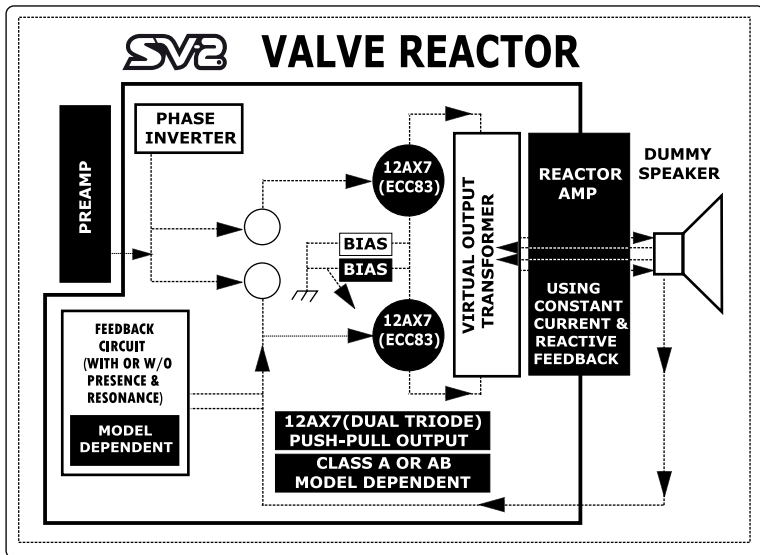
## Valve Reactor技術とは

### パワー・アンプで引き立つライブ・サウンド

SV-2は、ライブ・パフォーマンスのためにValve Reactor回路がチューンナップされています。通常のライン接続用のモデリング・エフェクトは、実際には直接スピーカーを接続して使用することが無いため、パワー・アンプ回路、アウトプット・トランスおよびスピーカーは省かれています。つまり、プリアンプ回路のみで構成されています。

しかし、本当の真空管アンプ・サウンドは、プリアンプのみでなくパワー・アンプの歪みや実際にパワー・アンプがスピーカーを駆動する際に発生するインピーダンス変動によって作り出されます。SV-2は、実際に低いワットテージのチューブパワーアンプ回路とアウトプットトランスをソリッド・ステート部品でエミュレートしたバーチャル・アウトプット・トランス、それにスピーカーのインピーダンス変動をシミュレートしたダミー・スピーカー回路を搭載しています。つまり、出力パワーは小さいながらもSV-2は実際のフル・チューブ・アンプと同じ回路構造になっています。

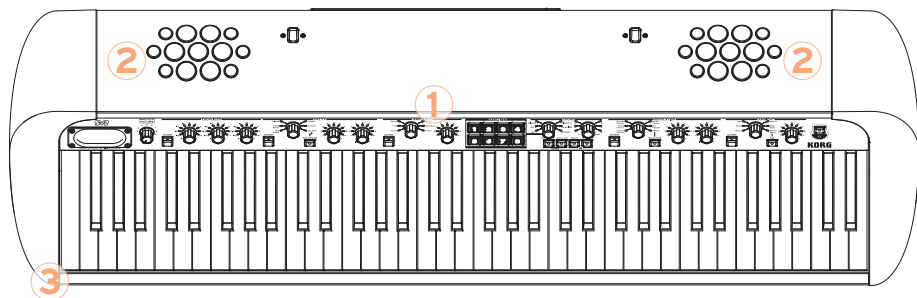
これは、ライブ演奏で威力を発揮します。本機からメイン・ミキサーに送られるサウンドは、高品位マイクでアナログ・アンプから集音したのと同じだからです。



# 各部の名称と機能

## フロント・パネル

SV-2のコントロールはフロント・パネルで行います。



### 1 コントロール・パネル

この細長い帯にボタン、ノブ、そしてピアノの各種コントロールが含まれています。機能については本マニュアルの後半で詳細に説明します。



### 2 スピーカー (SV2-73S, SV2-88S)

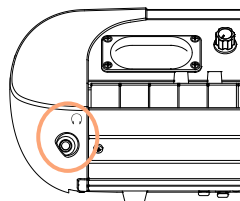
スピーカー内蔵モデルでは、ここから音が出ます。

### 3 ヘッドホン端子(ステレオ)

この端子にヘッドホンを接続します (🔌)。インピーダンス16~200Ω (50Ω推奨) のヘッドホンをご使用ください。ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカー (SV2-73S, SV2-88S) は自動的にオフになります。

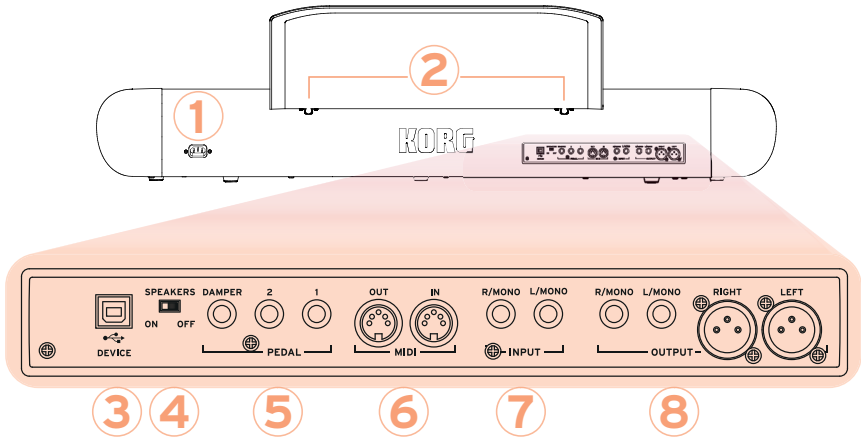
**MASTER VOLUME**ノブで出力レベルを調節します。

**ヒント:** 複数のヘッドホンを使用する場合は、イヤホン・スプリッターを使用してください。



## リア・パネル

リア・パネルにはさまざまな機器を接続するための端子があります。



### 1 電源端子

付属の電源コードを接続します。

### 2 譜面立て用穴

SV-2には譜面立てを付属しています。譜面立ての足の部分を、2つの専用穴に差し込んでください。

### 3 USB DEVICE端子

この端子は、コンピューターに接続（MIDIポートを兼用）してシーケンサーを使用したり、SV-2 Editorソフトウェアで詳細な編集をしたりするときに使用します。Windowsで、この端子を使用するときは、あらかじめコンピューターにKORG USB-MIDIドライバーをインストールしてください（MIDIドライバーは当社ウェブサイトからダウンロードできます。インストール等についてはドライバーの説明をご覧ください）。

Note: 最新のOS対応状況については、コルグ・ウェブサイトをご覧ください。  
<https://www.korg.com/support/os/>

### 4 SPEAKERS ON/OFFスイッチ (SV2-73S、SV2-88S)

このスイッチで内蔵スピーカーのオンとオフを切り替えます。

### 5 PEDAL 端子 (DAMPER, 1, 2)

付属のコルグDS-2HまたはDS-1H（別売り）をDAMPER端子に接続します。ペダルは、ダンパー・ペダルとして動作します。

フット・スイッチ (コルグPS-1、PS-3:別売り) を**PEDAL 1**端子に接続します。フット・スイッチはソステヌート・ペダルとして、またはロータリー・スロー/ファスト・スイッチ (ロータリ/エフェクトが選択されている場合) として動作します。

フット・スイッチ (コルグPS-1、PS-3:別売り)、ボリューム/エクスプレッション・ペダル (コルグXVP-20、EXP-2:別売り) を**PEDAL 2**端子に接続します。フット・スイッチはソフト・ペダルとして動作します。ボリューム/エクスプレッション・ペダルは、ボリューム・コントロール (デフォルト設定) として動作します。ワウ・エフェクトが選択されているときはワウ・フィルター・コントロールとして動作します。ワウ・エフェクトをコントロールする場合には、**PRE FX**セクション (Pedalモード) の**Auto/Pedal**のランプを点灯させます。

コルグDS-2Hダンパー・ペダルはあらかじめキャリブレーションされています。ボリューム/エクスプレッション・ペダルは、通常すべての範囲で反応するようにするためにキャリブレーションが必要となります。フット・スイッチの極性を設定する場合にもキャリブレーションを行ってください。ペダルのキャリブレーションと極性の設定については39ページ、「ペダルのキャリブレーション」を参照してください。

## 6 MIDI 端子 (IN, OUT)

MIDIを使用すると、シーケンサーからSV-2をコントロールしたり、SV-2から外部MIDIデバイスをコントロールしたりすることができます。SV-2で外部MIDIデバイスを操作するとき、またはシーケンサーにレコーディングするときには、**LOCAL OFF**ボタンを押してランプを点灯させます。これにより内部音源と鍵盤の接続が切断されます (MIDI側からではなく)。

**MIDI OUT**は、MIDIデータを送信します。接続した外部MIDIデバイスまたはコンピューターをコントロールするときに使用します。MIDIケーブルを使って他のデバイスのMIDI IN端子に接続します。

**MIDI IN**は、MIDIデータを受信します。接続した外部MIDIデバイスまたはコンピューターからSV-2をコントロールするときに使用します。MIDIケーブルを使って他のデバイスのMIDI OUT端子に接続します。

## 7 INPUT 端子 (L/MONO, R/MONO)

キーボード、シンセサイザー、CD、オーディオ・プレーヤーなどライン・レベルの音源をこれらの端子に接続します。モノラルで接続する場合は、どちらか1つの端子に接続します。

## 8 OUTPUT 端子 (L/MONO, R/MONO, LEFT, RIGHT)

**L/MONO, R/MONO** (6.3mmフォーン端子:アンバランス)、または**LEFT, RIGHT** (XLR端子:バランス) のどちらかを使用できます。短いケーブルを使用するときは6.3mmフォーン端子 (アンバランス) を、ステージ演奏などで長いケーブルを使用するときは、XLR端子 (バランス) を使用することをお勧めします。どちらを使用しても支障はありません。

モノラル出力が必要な場合は、どちらかの**MONO** 6.3mmフォーン端子へ接続します。XLR端子はモノラル出力に使用することはできません。

**ヒント:** できるだけLEFT, RIGHT (XLR端子:バランス) を使用することをお勧めします。

**警告:** 本機のLEFT, RIGHT (XLR端子:バランス) をミキサー等に接続する場合、接続先のファンタム電源を必ずオフにしてください。本機を破損することがあります。

## 接続


SV-2をオーディオ・アンプ、ペダル、MIDIデバイスに接続する方法について説明します。

- 1 SV-2と、接続するすべての機器の電源をオフにします。

**注意:** 接続する前に、各機器の電源を必ずオフにしてください。電源が入ったまま接続すると、スピーカー・システムが損傷する恐れがあります。

- 2 SV-2をミキサーまたはスピーカー・システムに接続する場合は、**OUTPUT**端子をミキサー、レコーダー、またはスピーカー・システムのライン入力端子に接続します。

モノラルで接続する場合は、MONO OUTPUT端子を使用します。SV-2の音色を最大限に生かすためには、ステレオで接続することをお勧めします。

- 3 ヘッドホンを使う場合は、ヘッドホンのプラグを**ヘッドホン**()端子に接続します。

SV2-73SとSV2-88Sでは**内蔵スピーカー**は自動的にオフになります。ヘッドホン端子を接続しても、**OUTPUT**端子からは音声信号が出力されます。ヘッドホンからだけ音を聞こえるようにするときは、SV-2を接続している機器の電源をオフにするか、その機器のボリュームを下げてください。

- 4 SV-2のフロント・パネルにある**MASTER VOLUME**ノブを左に回し、ボリュームを「0」にします。

- 5 付属の電源コードをSV-2のリア・パネルにある**電源**端子に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

**警告:** 感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続してください (13ページ参照)。

- 6 ペダルをリア・パネルの**PEDAL**端子に接続します。

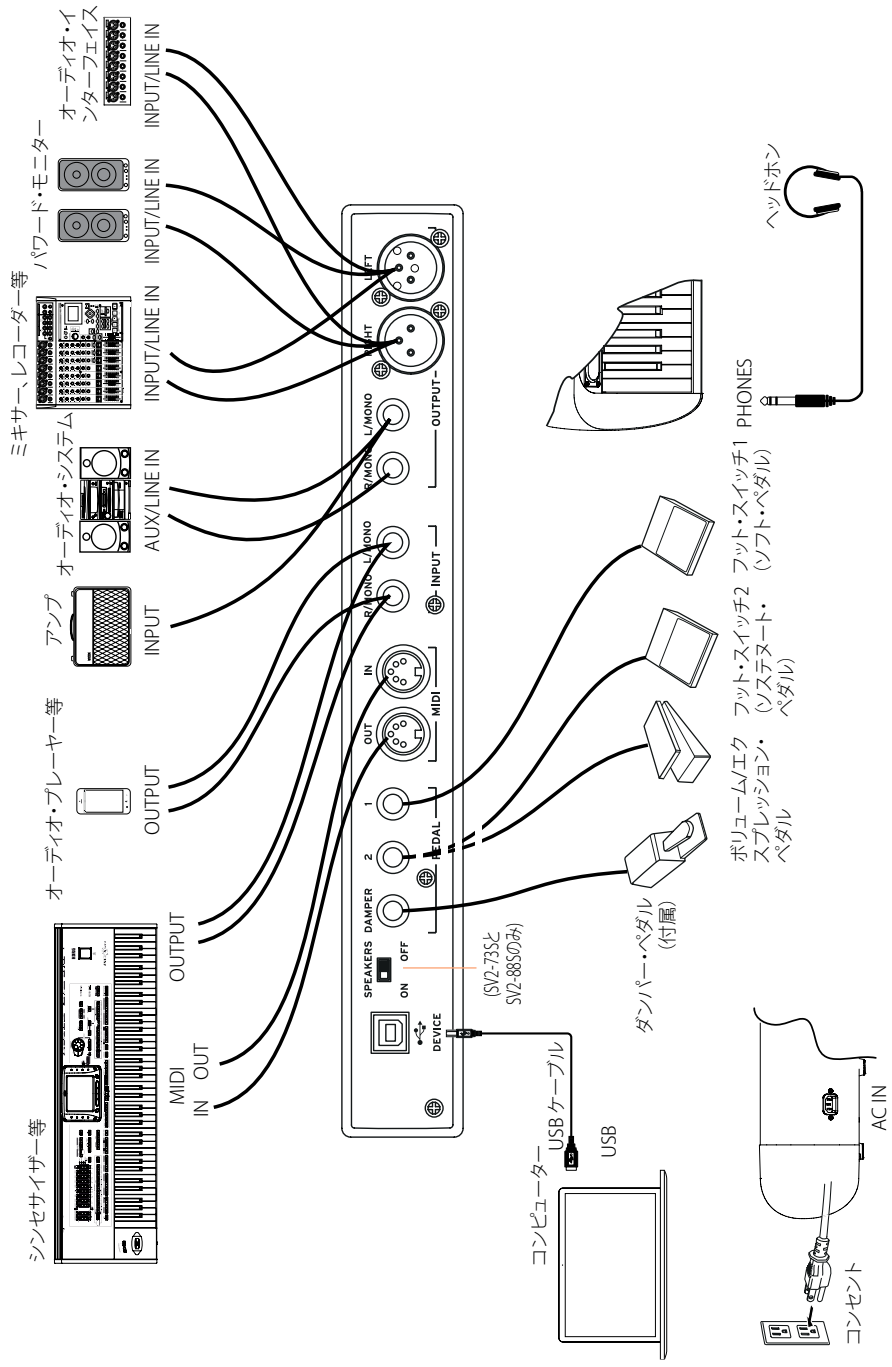
- 7 **MIDI**または**USB**ケーブルをSV-2および他のデバイスに接続します。

- 8 必要に応じて外部CD/オーディオ・プレーヤーやシンセサイザーをリア・パネルの**INPUT**端子へ接続します。

- 9 SV-2の**電源**スイッチをオンにします。

- 10 ミキサーまたはスピーカー・システムの電源をオンにします。

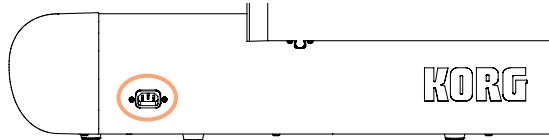
- 11 ミキサーまたはスピーカーのボリュームを上げ、SV-2のフロント・パネルの**MASTER VOLUME**ノブでボリュームを調節します。



# SV-2の電源をオンにする

## 電源のオンとオフを切り替える

- 1 付属の電源ケーブルをリア・パネルの電源端子に接続します。



- 2 電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

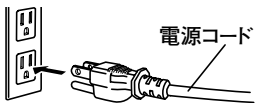
電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続します。

**注意:** 電源は必ずAC100Vを使用してください。

### 接地極付きコンセントに接続する場合

接地極付きコンセント

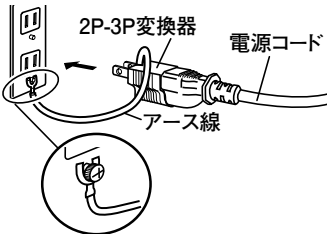
接地極付きコンセントに、AC電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。



### アース端子付きコンセントに接続する場合

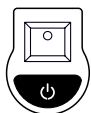
アース端子付きコンセント

AC電源コードのプラグに、2P-3P変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P変換器のプラグを差し込みます。



**注意:** アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

- 3 コントロール・パネルの電源スイッチを押して、電源をオンにします。真空管が点灯し、ウォーミングアップが始まります。数秒後にSV-2が演奏できるようになります。



SV-2には、12AX7 (ECC83) バルブ (真空管) が搭載されています。

**警告:** バルブ・カバーやバルブは衝撃により破損することがあります。バルブ・カバーが破損した場合は、交換してください。破損したバルブ・カバーをそのまま使用するとバルブ自体が損傷する恐れがあります。

**注意:** コルグSV-2の電源をオンにすると、真空管が一瞬点滅します。これは特定の真空管の特徴です。SV-2の電源をオンにした際、真空管がまだ温まっていないときにこの現象が現れます。これによりその真空管やSV-2の性能に支障が出ることはありません。

- 4 SV-2の電源をオフにするときは、電源スイッチを約 1 秒間押します。

## オート・パワー・オフ

工場出荷時の設定では、本機を2時間操作しないと、電源が自動的にオフになります (節電のため)。電源がオフになることを回避するには、その前に鍵盤を弾くか、コントロール・パネル (MASTER VOLUMEノブ以外) のボタンやノブを操作してください。ペダルやMIDIメッセージではリセットできません。

変更内容を失わないためにも、編集したデータがある場合は本機から離れる前にデータをセーブしてください。

必要に応じてこの機能は、以下の方法でオフ (または再びオンに) に設定することができます。

- 1 FUNCTION ボタンを押します。そのランプとSPEEDノブ (PRE FXセクション) の周囲のランプが点滅します。
- 2 SPEEDノブを回してオート・パワー・オフ機能を有効または無効に設定します。

SPEED ノブ値	オート・パワー・オフ状態
0	無効
10	有効

- 3 FUNCTION ボタンを再び押して設定内容を保存し、通常操作へ戻ります。



## マスター・ボリュームを調整する

SV-2の全体の音量を設定します。

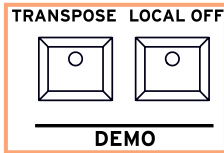


**MASTER VOLUME**ノブを時計回りに回すと音量が上がり、反時計回りに回すと音量が下がります。

このノブは、内蔵スピーカー (SV2-73S、SV2-88S)、OUTPUT端子とヘッドホン端子の全体の音量をコントロールします。

**警告:** 音量は常に適切なレベルに保ってください。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。

## デモ・ソングを聴いてみよう



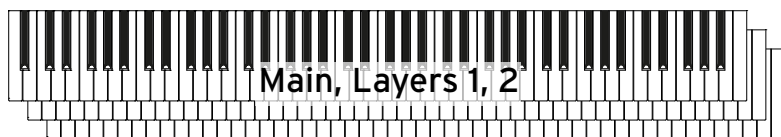
SV-2のデモ・ソングを聴いてみましょう。いくつかのデモ・ソングを選択してサウンドを確認してみてください。

- 1 **TRANSPOSE** ボタンと**LOCAL OFF** ボタンを同時に押します。それぞれのボタンのランプが点滅します。
- 2 このまま何も操作をしない場合は、すべてのデモ・ソングが順番に再生されます。
- 3 任意にデモ・ソングを選ぶときは、以下の操作をします。ファクトリー・サウンドごとにデモ・ソングが用意されています。
  - **SOUND** セクションの**TYPE** ノブと、**VARIATION** ノブを回して選びます。
  - バンクを切り替えるときは、**VARIATION** ノブを押します。ノブのランプが緑色に点灯し、2つめのバンクのデモ・ソングが選べます。もう一度**VARIATION** ノブを押すとランプがオレンジ色に点灯し、1つめのバンクに戻ります。
 自動再生が開始された後でもデモ・ソングを選択できます。
- 4 **MASTER VOLUME** ノブで音量を調節します。
- 5 デモ・ソングの再生を停止するときは、**TRANSPOSE** ボタンと**LOCAL OFF** ボタンをもう一度押します。

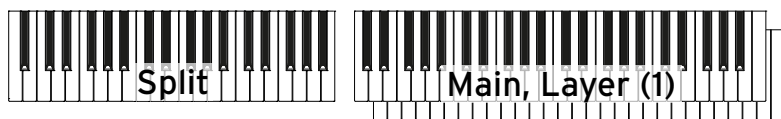
# サウンドを演奏する

## 「サウンド」とは

SV-2において、サウンドとは鍵盤を演奏したときに出力される「音色」または「音色のセット」を意味します。各サウンドは、最大3つの「プログラム」で構成され、それぞれが異なる音色や、鍵盤の機構音とハンマーが弦を打つ音といった付随する「ノイズ」とのセットなどがあります。メインのプログラムに、1つまたは2つのプログラムを重ねると、これらの音色がメインの音色とミックスされます（レイヤー）。一般的に知られる「ピアノとストリングス」のサウンドを例にとってみましょう。ピアノ、そしてピアノのノイズ、ストリングスのプログラムで構成されます。



鍵盤の高音域側と低音域側に異なるプログラムを配置すると、それぞれで異なるサウンドが鳴ります（スプリット）。たとえば高音域側に1つまたは2つのプログラムを使用し、3つめのプログラムは低音域側で伴奏のために使用するなどできます（アップライト・ベース、シンセ・パッドなど）。



## ファクトリー・サウンドとフェイバリット・サウンド

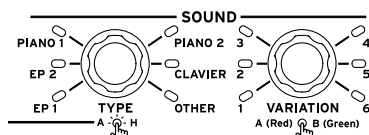
SV-2には、72個のファクトリー・サウンドが保存されており、これらのサウンドはフロント・パネルのノブで音色を変化させることができます。気に入った音色に仕上がったときは、フェイバリット・サウンドとして64個保存することができます。（SV-2 Editorソフトウェアを使用することで、詳細なエディットを行うことができます。）

音が出ている途中で、次のサウンドに切り替えたとき、通常、鳴っている音には影響なく、次に鍵盤を押すと切り替えたサウンドで鳴り、スムーズな移行が行えます。ただし、AMPLIFIERセクションがオンで、真空管を使用しているときは例外です。

## ファクトリー・サウンドを選択する

### ファクトリー・サウンドの選択方法

ファクトリー・サウンドは**SOUND**セクションで選択します。



- 1 **SOUND**セクションの**TYPE**ノブを回して、サウンド・タイプを選択します（6種類のうち1つ）。
- 2 **SOUND**セクションの**VARIATION**ノブを回して、バリエーションを選択します（6個のうち1つ）。

ノブの周りのランプが点灯し、選択したサウンドとバリエーションを示します。

- 3 **VARIATION**ノブを押して、バリエーションの2つめのバンクを選択します（ランプの色が緑色に変わります）。

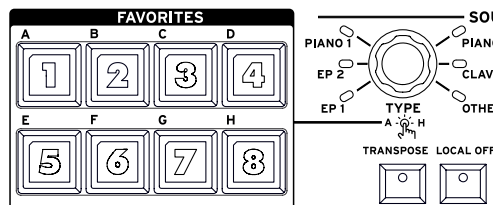
**VARIATION**ノブを回して、2つめのバンクからバリエーションを選択します（6個のうち1つ）。

- 4 バリエーションの1つめのバンクへ戻るときは、**VARIATION**ノブをもう一度押します（ランプの色がオレンジ色に戻ります）。

## フェイバリット・サウンドを選択する

### フェイバリット・サウンドの選択方法

自身がエディットして作成したサウンドなどが含まれるフェイバリット・サウンドは、**FAVORITES**セクションで選択します。



- 1 現在のバンクからフェイバリット・サウンドを選択するときは、該当する**FAVORITES (1~8)**ボタンを押します。

選択したバンクを知りたいときは、**TYPE**ノブを押して、点滅している**FAVORITES (A~H)**ボタンがどれであることを確認します。もう一度ノブを押してバンクの選択モードを終了します(またはランプが消灯するまで待ちます)。

- 2 別のバンクでフェイバリットを選択するときは、**TYPE**ノブを押します。現在のバンクが、点滅する**FAVORITES (A ~ H)**ボタンで示されます。

選択するバンクに該当する**FAVORITES (A~H)**ボタンを押します。

次に、選択したいフェイバリットに該当する**FAVORITES (1~8)**ボタンを押します。

### 最後に選択したファクトリー・サウンドに戻る方法

フェイバリット・サウンドを選択した後、前述の方法でファクトリー・サウンドを再び選択することができます。

または別の方法で、速やかに最後に選択したファクトリー・サウンドへジャンプすることもできます。

**SOUND**セクションの**VARIATION**ノブを押します。

## サウンド・リスト

内蔵サウンドの名前と簡単な説明を下表に示します。

名前に「&」が含まれるもの（「FM Piano & Pad」など）は、2つまたは3つのプログラムが鳴るレイヤーのサウンドです。名前に「/」が含まれるもの（「Pad/Mini Lead」など）は、鍵盤の上下で異なるプログラムが鳴るスプリットのサウンドです。

### ファクトリー・サウンド

外部MIDIデバイスからファクトリー・サウンドを切り替えることができます。SV-2にMIDIコントロール・チェンジのバンク・セレクトCC#32を値0、CC#00を値0で送信し、次にプログラム・チェンジ(下記リスト「PC」参照)を送信します。

サウンド	Var	PC	説明
<b>EP 1</b>			
MK I Suitcase	A1	0	代表的なタイン/トーン・バー機構を持つエレクトリック・ピアノ MK I。2つのバージョンのサウンド
MK I Stage	B1	6	
MK II Suitcase	A2	1	格調の高い MK II。2つのバージョンのサウンド
MK II Stage	B2	7	
MK V Stage	A3	2	ベルのようなサウンドで知られる MK V Stage のサウンド
MK V Bright	B3	8	
Dyno EP	A4	3	ソフトなバラードや、明るいソロにも向く、ポピュラーな改造モデルのエレクトリック・ピアノ・サウンド
Dyno EP Bright	B4	9	
Wurly	A5	4	リードのパンチの効いたスタンダードなサウンド。'60年代と'70年代のポップ・サウンド
Wurly Classic	B5	10	
Wurly Dark	A6	5	リード機構を持つエレクトリック・ピアノ。よりダーク、よりブライتناサウンド
Wurly Bright	B6	11	
<b>EP 2</b>			
FM Piano 1	A1	12	'80年代を代表するFMエレクトリック・ピアノ・サウンド。当時、数多くのレコードから聴こえたサウンド
FM Piano 3	B1	18	
FM Piano 2	A2	13	FMピアノ + パッド・サウンドはその時代のもう一つの定番
FM Piano & Pad	B2	19	

サウンド	Var	PC	説明
Pianet T	A3	14	ドイツの電気式ピンテージ・キーボードです。エレクトリック・ピアノのユーロ・バージョン
Pianet N	B3	20	
Hybrid Piano	A4	15	新しいピアノのサウンドスケープ。ピアノのハイブリッドな組み合わせ
Hybrid Tine	B4	21	
Wurly & Strings	A5	16	エレクトリック・ピアノとストリングスの組み合わせ。リードかFMかを選択
FM & Strings	B5	22	
MK II & Pad	A6	17	エレクトリック・ピアノとパッドの組合せ。タインかFMかを選択
FM & Pad	B6	23	
<b>PIANO 1</b>			
German Grand	A1	24	ドイツ製の最も有名なグランド・ピアノ・サウンド。クラシック、ジャズ、ポップスなどに最適
German Classic	B1	30	
Italian Grand	A2	25	イタリア製のグランド・ピアノ・サウンド。クラシック、ジャズなどに最適
Italian Bright	B2	31	
Japanese Grand	A3	26	もう一つの必需品である日本製のグランド・ピアノ・サウンド。クラシック、ジャズ、ポップスなどに最適
Japanese Bright	B3	32	
Austrian Grand	A4	27	オーストリア製のグランド・ピアノ・サウンド。クラシック、ジャズなどに最適
Austrian Classic	B4	33	
Japanese Upright	A5	28	共鳴音が特徴的な大型の日本製アップライト・ピアノ・サウンド
Upright Bright	B5	34	ポピュラーなポップ・バンドでよく使われるような、落ち着いた音がながらも明瞭なピアノ・サウンド
German Upright	A6	29	ドイツ製のアップライト・ピアノ。特徴的なメロウなサウンド
Rock Piano	B6	35	ロックとロカビリーに最適なアグレッシブなアップライト・ピアノ・サウンド
<b>PIANO 2</b>			
Electric Grand	A1	36	'70年代に制作されたエレクトリック・アコースティック・ピアノ。ギグ・ミュージシャンの間で人気があった独特なメロウ・サウンド
German Mono	B1	42	ドイツ製グランド・ピアノのモノラル・バージョン。小型アンプやモノラル・モニター・システムでの演奏に向く
KORG M1 Piano	A2	37	コルグ・ピアノの遺産。一時代を築き上げ、人気を博したM1ミュージック・ワークステーションと、先駆的なSG-1D デジタル・ピアノからのサウンド
KORG SG-1D	B2	43	

サウンド	Var	PC	説明
Digital Piano	A3	38	ポピュラーなデジタル・キーボード/シンセサイザーで' 80年代後期に作られた、革新的で緻密な表現豊かなピアノ・サウンド
Electra Piano	B3	44	' 70年代のポピュラーなエレクトリック・ピアノ。多くの有名なクラシック・ロックとプログレッシブ・ロックのミュージシャンによって使用されたサウンド
Tack Piano	A4	39	タック・ピアノとホンキートンク・ピアノ・サウンド。ラグ・タイムとストライド・ジャンルに最適
Honky-Tonk	B4	45	
Piano & Strings	A5	40	ピアノとストリングスまたはパッドのレイヤー・サウンド。アンビエント・ミュージックにも向く
Piano & Pad	B5	46	
Piano & Synth	A6	41	ピアノとシンセサイザーまたはブラスのレイヤー・サウンド。フュージョン・ジャズの時代を思い起こせるミックス
Piano & Brass	B6	47	
<b>Clavier</b>			
Clav AC	A1	48	同位相でのクラビ（エレクトリック・クラビコード）サウンド
Clav AD	B1	54	
Clav BC	A2	49	逆相とエッジの効いたクラビ・サウンド
Clav BD	B2	55	
Harpsichord	A3	50	ルネッサンス後期とバロック時代の音楽などに適した 8" と 8" +4" のハープシコード・サウンド
Harpsichord Oct.	B3	56	
Perc. Organ	A4	51	パーカッションを加えたクリーンとディストーションのトーンホイール・オルガン・サウンド
Rock Organ	B4	57	
Jazz Organ	A5	52	ジャジーなトーンホイール・オルガン・サウンド
Vox Organ	B5	58	VOX Continental Connie トランジスター・オルガン・サウンド
Church Organ	A6	53	荘厳なパイプ・オルガン・サウンド
Pipe Organ	B6	59	柔らかな（瞑想的な）パイプ・オルガン・サウンド
<b>Other</b>			
Full Strings	A1	60	趣の異なるクラシカルなストリングス・サウンド
Classic Strings	B1	66	
Tape Strings	A2	61	1970年代のメロウなシンセ・ストリングス・サウンド
Strings & Voices	B2	67	ボイスが加わったリアルなストリングス・サウンド
Warm Pad	A3	62	典型的なシンセ・パッド。ダークとブライトなサウンド
Bright Pad	B3	68	

サウンド	Var	PC	説明
Orchestra	A4	63	パワフルなオーケストラのトゥッティ
Pizzicato & Glock	B4	69	ピチカート奏法のストリングスとグロッケン（鉄琴）によるサウンド
Brass	A5	64	リアルなブラス・セクション・サウンド
Synth Brass	B5	70	荘厳で存在感のあるシンセ・ブラス・サウンド
Pad/Mini Lead	A6	65	ソフトなシンセ・パッドとソロ・シンセのスプリット・サウンド
Pad/SynthLead	B6	71	



## フェイバリット・サウンド

外部MIDIデバイスからフェイバリット・サウンドを切り替えることができます。SV-2にMIDIコントロール・チェンジのバンク・セレクトCC#32を値64、CC#00を値0で送信し、次にプログラム・チェンジ（下記リスト「PC」参照）を送信します。

サウンド	Pos	PC
<b>Demo Shop</b>		
German Grand	A1	0
Italian Grand	A2	1
EP MK II	A3	2
Wurly	A4	3
Clav	A5	4
FM Piano	A6	5
Piano & Strings	A7	6
Bass/EP	A8	7
<b>Piano</b>		
German Grand	B1	8
Italian Grand	B2	9
Japanese Grand	B3	10
Austrian Grand	B4	11
Japan Upright	B5	12
German Upright	B6	13
Rock Piano	B7	14
Tack Piano	B8	15
<b>Electric Pno</b>		
EP MK I	C1	16
EP MK II	C2	17
EP MK V	C3	18
Dyno EP	C4	19
Wurly Amp	C5	20
Wurly Tremolo	C6	21
FM Piano	C7	22
Hybrid EP	C8	23

サウンド	Pos	PC
<b>Claviers</b>		
Clav AC	D1	24
Clav BC	D2	25
Perc. Organ	D3	26
Jazz Organ	D4	27
Church Organ	D5	28
KORG M1 Piano	D6	29
Electric Grand	D7	31
Harpsichord	D8	32
<b>Layer</b>		
Piano & Strings	E1	32
Piano & Pad	E2	33
Piano & EP	E3	34
Piano & Vibes	E4	35
MK II & Pad	E5	36
Strings & Pad	E6	37
Piano & FM	E7	38
FM & Strings	E8	39
<b>Split</b>		
Ac. Bass/Piano	F1	40
El. Bass/Piano&Str	F2	41
Fretless/EP	F3	42
Slap/EP	F4	43
Slap/Clav	F5	44
EP Bass/Vox Organ	F6	45
Jazz Piano Trio	F7	46
Organ Dual Manual	F8	47

サウンド	Pos	PC
<b>Other</b>		
Full Strings	G1	48
Strings Octave	G2	49
Orchestra Tutti	G3	50
Brass	G4	51
Warm Pad	G5	52
Synth Brass	G6	53
Pad/SynLead	G7	54
Synth Bass	G8	55

サウンド	Pos	PC
<b>Legacy SV1</b>		
SV1 Grand Piano 1	H1	56
SV1 Grand Piano 2	H2	57
SV1 Tine EP Amp	H3	58
SV1 Reed EP1	H4	59
SV1 Clav AC	H5	60
SV1 Clk.Tonewheel	H6	61
SV1 Full Strings	H7	62
SV1 Synth Brass	H8	63

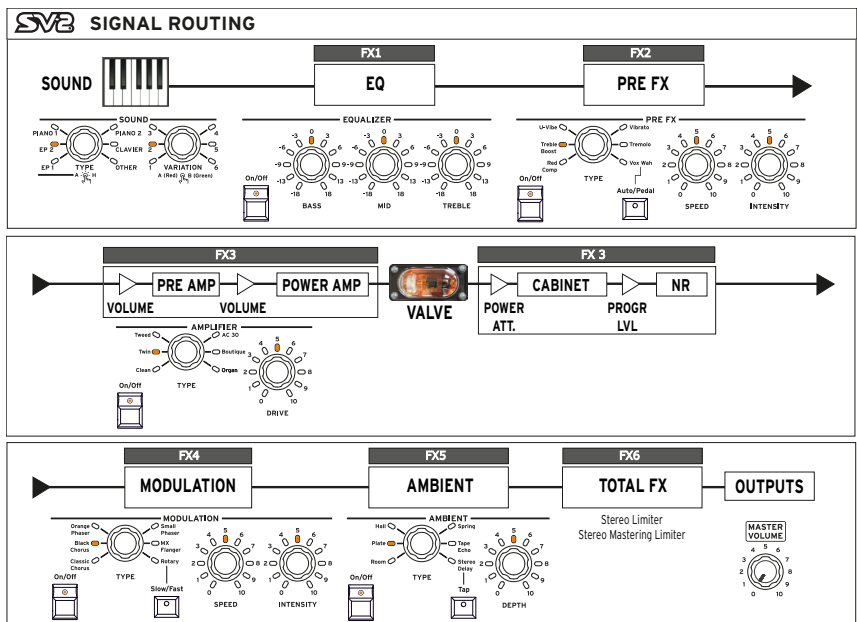
# エフェクトを使用する

## エフェクト

各セクションの**TYPE**ノブを回して、さまざまなエフェクトとアンプ・モデルを選択することができます。**DEPTH**、**INTENSITY**、**SPEED**、**DRIVE**の各ノブでエフェクトの主だったパラメーターの設定を変更できます。ノブを押すと、そのパラメーターの元の設定値が呼び出されます。SV-2 Editorソフトウェアを使用することで、より詳細にエディットすることができます。

エフェクトとアンプ・シミュレーション機能は、該当する**On/Off**ボタンを押してオンとオフを切り替えます。変更内容はサウンドと共に**FAVORITES**に保存することができます。

エフェクト・チェーンの先頭には、最もインパクトの強いプリ・エフェクトを配置し、エフェクト・チェーンの最後には、いちばん穏やかな、音色を落ち着かせる仕上げ用のエフェクトを配置します。このエフェクト・チェーンの考え方はクラシックなアンプのエフェクト・チェーンと全く同じです。

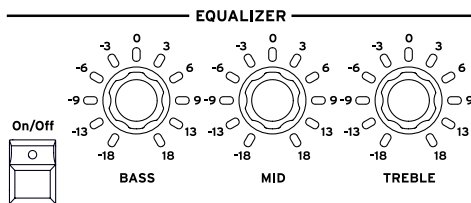


**注意:** エフェクトによっては、エディットする実際のパラメーター名が、本機のパネルに印字されているものとは異なる場合があります。以下の表 (27ページ参照) に記載されているとおり、SV-2 Editorで表示される名称が本来の名称です。例えば、PRE FX Compressorの場合、SPEEDノブはSensitivityパラメーターを、INTENSITYノブはLevelパラメーターをコントロールすることになります。

## エフェクトのエディット

### Equalizer

**EQUALIZER**セクションの3つのノブを使用して3バンド・イコライザーにアクセスし、SV-2から出力されるサウンド全体の音質を調節します。イコライザーの周波数域をデフォルト値に戻すときは、それぞれのノブを押します。

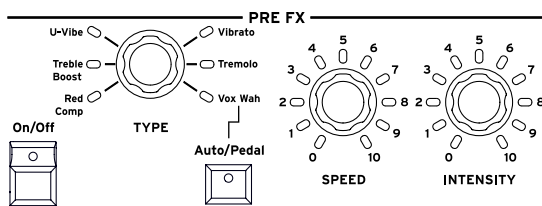


- 1 3つの**EQUALIZER**ノブを回して、低域、中域、高域周波数を調節します。
- 2 ノブの位置を変更した後、それぞれのノブを押すことで元の設定に戻すことができます。

**警告:** 周波数の設定を極端に高くすると、音量が大きくなる場合がありますので注意してください。

### Pre FX

SV-2にはストンプボックス・シミュレーターが組み込まれています。これはアンプ入力の前に挿入されたペダル・エフェクトをシミュレートしたものです。**PRE FX**セクションを使用してSV-2に用意された6種類のペダル・エフェクトの中から1つを選択します。ペダル・エフェクトはアンプの前に配置されます。



- 1 **PRE FX**セクションの**TYPE**ノブを回して、ストンプボックス・エフェクトを選びます。
- 2 **SPEED**ノブでU-VibeやTremoloエフェクトのモジュレーションの速度を変更します。モジュレーションのかかり具合は**INTENSITY**ノブで変更します。デフォルト値に戻すときは、**SPEED**、**INTENSITY**ノブを押します。

**注意:** Boostは、とても大きな音量になるので、音量が大きいですので音が大きくなりすぎないように注意してください。

- 3 ワウ・エフェクトを選択した場合、**AUTO/PEDAL** を使用できます。ボタンのランプが消灯(**Autoモード**)しているとき、ワウ・エフェクトのフィルターは自動的にサウンドとダイナミクスに合わせて設定されます。点灯してオン(**Pedalモード**)のときは、**PEDAL 2**端子に接続したエクスペッション・ペダルでフィルターの開き具合をコントロールします。ペダルを接続していないときは、フィルターは固定の周波数に設定されます。

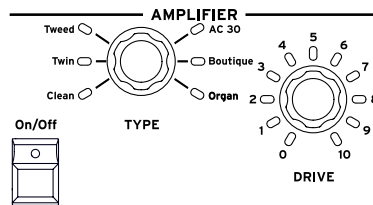
**注意:** エクスペッション・ペダルを使用してワウをコントロールする場合は、あらかじめエクスペッション・ペダルの感度を調整することをお勧めします。29ページ「ペダルのキャリブレーション」を参照してください。

PRE FX タイプ	SPEED ノブ	INTENSITY ノブ
Red Comp	Sens (感度)	Level (出力)
Treble Boost	Drive (ドライブ)	Level (出力)
U-Vibe	Speed (スピード)	Depth (効果)
Vibrato	Type (スピード)	Mix (ミックス)
Tremolo	Speed (スピード)	Depth (効果)
Vox Wah	Manual Wah	Type (V-847, V-848)

**注意:** Manual WahコントロールはAUTO/PEDALボタンが Pedalモードのときにのみ作動しません。

## Amplifier

**AMPLIFIER**セクションではアンプ・モデル (キャビネットを含む) を選択します。VOX AC30を含めた6種類のクラシックなアンプ・モデルから選択することができます。各アンプ・モデルにはSV-2 Editorで編集可能なキャビネット・シミュレーターも含まれています。



- 1 **AMPLIFIER**セクションの**TYPE**ノブを回してアンプを選びます。

プリアンプとパワー・アンプの動作モード、トーン・コントロールの応答と回路内でのそれらの配置は、ここで選択したアンプ・タイプによって変化し、実際のアンプのゲインと音の特徴を正確に再現します。すべての主なパワー・アンプの分類 (クラスAまたはAB)およびネガティブ・フィードバック回路 (または無し) も正確にシミュレートされます。

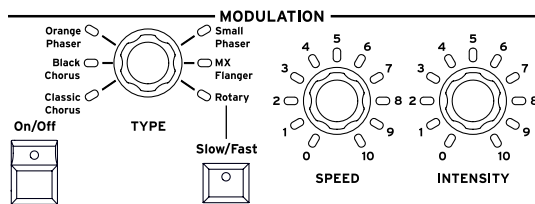
- 2 プリアンプのボリューム(オーバードライブのサチュレーション)は**DRIVE**ノブで変更します。デフォルト値に戻すときは、**DRIVE**ノブを押します。

**注意:** 過度なDRIVE設定により音が歪むことがあります。その場合は、設定値を小さくしてください。

アンプ・タイプ	DRIVEノブ
Clean	PreVol (プリ・ボリューム)
Twin	PreVol (プリ・ボリューム)
Tweed	PreVol (プリ・ボリューム)
AC30	PreVol (プリ・ボリューム)
Boutique	PreVol (プリ・ボリューム)
Organ	Drive (ドライブ)

## Modulation

**MODULATION**セクションではモジュレーション・エフェクトを選択します。6種類のモジュレーション・エフェクト・モデルから1つを選びます。エフェクトはアンプとキャビネット・モデルの後に配置されます。



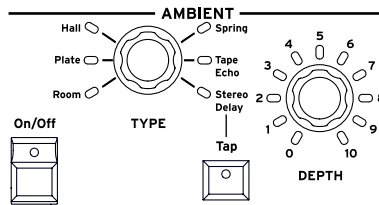
- 1 **MODULATION**セクションの**TYPE**ノブを回してモジュレーション・エフェクトを選びます。
- 2 **SPEED**ノブを回してモジュレーションの速度(またはホーンの回転)を変更します。かかり具合(またはホーンの加速度)を変更するときは**INTENSITY**ノブを使用します。デフォルト値に戻すときは、**SPEED**、**INTENSITY**ノブを押します。
- 3 ロータリー・エフェクトを選択した場合は、**SLOW/FAST**ボタンでローターの回転速度を変更します。

**ヒント:** ロータリー・エフェクトを選択し、本機のリア・パネルのPEDAL 1端子にフット・スイッチを接続している場合、ペダルでローターの回転速度をSLOWまたはFASTに切り替えることができます。

MODULATION タイプ	SPEED ノブ	INTENSITY knob
Classic Chorus	Speed (スピード)	Depth (効果)
Black Chorus	Speed (スピード)	Intensity (強さ)
Orange Phaser	Speed (スピード)	Depth (効果)
Small Phaser	Speed (スピード)	Color (カラー) type 1, 2
MX Flanger	Speed (スピード)	Depth (効果)
Rotary	Horn Speed (ホーンの回転スピード)	Horn Accel (ホーンの加速度)

## Ambient

**AMBIENT** セクションでは、リバーブ、ディレイ、エコー・エフェクトを選択します。ここで4種類のリバーブ、エコー、ディレイ・エフェクト・モデルから1種類を選びます。エフェクトはアンプとキャビネット・モデル、そしてモジュレーション・エフェクトの後に配置されます。



- 1 AMBIENT** セクションの**TYPE**ノブを回してリバーブ、エコー、またはディレイ・エフェクトを選びます。
- 2 DEPTH**ノブでエフェクトのかかり具合を調節します。デフォルト値に戻すときは、**DEPTH**ノブを押します。
- ステレオ・ディレイ・エフェクトを選択した場合、**TAP**ボタンを4回押すと、押した間隔でディレイ・タイムを入力することができます。ランプの点滅によって、入力したテンポを視覚的に確認できます。テンポが正しく入力できなかったときは、ランプは点滅しません。

AMBIENT タイプ	DEPTH ノブ
Room	Mix (ミックス量)
Plate	Mix (ミックス量)
Hall	Mix (ミックス量)
Spring	Mix (ミックス量)
Tape Echo	Mix (ミックス量)
Stereo Delay	Mix (ミックス量)

## MIDIでエフェクトをオン/オフする

外部MIDIデバイスからSV-2にコントロール・チェンジ・メッセージを送信して、エフェクトをオンまたはオフにできます。次の表に各エフェクトに対応するMIDIメッセージと、オンとオフに対応する値を示します。

Effect	CC#	Value	
		On	Off
Equalizer	102		
Pre FX	103		
Amplifier	104	127	0
Modulation	105		
Ambient	106		



# 保存、リセット

## 設定をデフォルト値に戻す

ノブを回すと、対応するパラメーターの値が変化します。同じノブを押すと、元の値(デフォルト値)に戻ります。

エフェクト・タイプの各パラメーターをデフォルト値に戻すには、エフェクトのTYPEボタンを押します。

すべてのパラメーターをデフォルト値に戻すには、サウンドをもう一度選択し直します。

## エディット中にサウンドまたはエフェクトを切り替える

セクション内の別のエフェクトを選択しても、先のエフェクトの変更は保持されています。先にエディットしたエフェクトを引き続きエディットすることもできます(デフォルト値に戻りたいときは、対応するパラメーターのノブを押します)。

一方、他のファクトリーまたはフェイバリット・サウンドを選択すると、すべてのパラメーターは初期の設定にリセットされ、変更内容は失われます。

## 変更したサウンドを保存する

エディットしたサウンドが気に入ったときは、それをフェイバリット・サウンドとして保存することができます。

- 1 **SOUND**の**TYPE**ノブを押し、フェイバリット・サウンドのどのバンクが選択されているかを確認します。

現在選択されているバンクが、点滅する**FAVORITES (A~H)**ボタンで示されます。

- 2 別のバンクを選択するときは、選択するバンクに該当する**FAVORITES (A~H)**ボタンを押します。
- 3 フェイバリットの保存先とする**FAVORITES (1~8)**ボタンを1つ選び、そのボタンを押したままランプが点滅し始めるまで待ちます。
- 4 同じボタンをもう一度押し、保存を確認します。

変更内容を保存しない場合は、どのボタンも押さずに、ボタンのランプが消灯するまで数秒間待ちます。

**ヒント:** ギグやプロジェクトごとに、サウンドをフェイバリット・バンクに並べたり、グループ化したりすることができます。

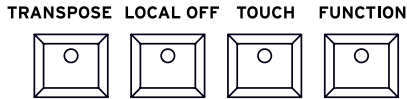
**注意:** フェイバリット・サウンドを保存すると、保存先の元のフェイバリット・サウンドは上書きされて消去されます。

**注意:** エディットしたサウンドやエフェクトを保存せずに、他のサウンドに切り替えるか、電源をオフにすると、変更内容はすべて失われます。

# 高度な設定

## 設定ボタン

TRANSPOSE、LOCAL OFF、TOUCH、FUNCTIONボタンを使用して、SV-2を自分のプレイ・スタイルに合わせるなどの、さまざまな設定をします。



## マスター・チューンを調節する

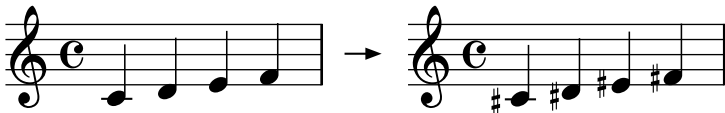
本機のピッチ（音高）を微調整し、他の楽器（チューニングが難しい等）に合わせます。

- 1 **FUNCTION**ボタンを押します。ランプが点滅します。  
PRE FXセクションのINTENSITYノブの、ランプの1つが点滅します。
- 2 **INTENSITY**ノブを回して、SV-2のピッチを下げる、または上げます。  
デフォルト値はA=440Hzです。ノブの周りのランプがピッチの高低の最も近い値を示します。
- 3 デフォルト値のA=440Hzにピッチを戻すときは、**INTENSITY**ノブを押します。

## トランスポーズ

曲が難しい（例えば、黒鍵が多く使われている）ため、または他の楽器またはボーカリストに合わせるためにピッチを変えたいという場合があります。このような場合には、キーを変える（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いや、覚えたそのままの指使いで演奏することができるようになります。これがトランスポーズ機能です。

例えば、下図左の楽譜を1半音上げた状態で弾くと、右の楽譜を弾いたかのように聴こえます。

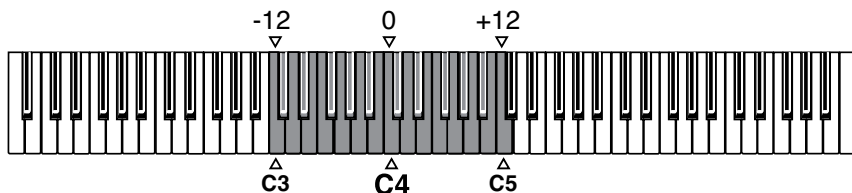


## トランスポーズのオンとオフを切り替える

- 1 **TRANSPOSE** ボタンを押してトランスポーズ機能をオンにします。トランスポーズが設定されている場合は、このボタンのランプが点灯しています。設定されていない場合は、ランプは消灯したままです。
- 2 元のキーに戻すときは、**TRANSPOSE** ボタンをもう一度押してトランスポーズ機能をオフにします。ランプが消灯します。

## トランスポーズを設定する

- 1 **TRANSPOSE** ボタンを約 1 秒間押します。ランプが点滅します。
- 2 鍵盤でトランスポーズ先のキーを押します。トランスポーズが設定され、ランプが点灯します。



鍵盤	説明
C3～B3	12～1 半音下げる
C4 (中央の C)	標準
C#4～C5	1～12 半音上げる

鍵盤を押さないと数秒経過すると、トランスポーズの設定は終了します。

- 3 元のキーに戻すときは、**TRANSPOSE** ボタンをもう一度押します。ランプが消灯します。

**注意:** 本機の電源を切ると、トランスポーズは解除されます。

## チューニング・カーブを選択する

楽器に合わせて、チューニング・カーブを選ぶことができます。

- 1 **FUNCTION**ボタンを押します。ランプが点滅します。  
8つのFAVORITESボタンのランプのうち、1つのランプが点滅します。
- 2 **FAVORITES**ボタンを押してチューニング・カーブを選びます。

フェイバリット	チューニング・カーブ
1	Equal (平均律)
2	Grand Piano 1 Stretch (グランド・ピアノ1 ストレッチ・チューニング)
3	Grand Piano 2 Stretch (グランド・ピアノ2 ストレッチ・チューニング)
4	Electric Piano Stretch (エレクトリック・ピアノ・ストレッチ・チューニング)
5	Electric Grand Stretch (エレクトリック・グランド・ピアノ・ストレッチ・チューニング)
6	Upright Stretch (アップライト・ピアノ・ストレッチ・チューニング)
7	User 1 (ユーザー・カスタム・スケール1)
8	User 2 (ユーザー・カスタム・スケール2)

**注意:** User 1とUser 2のカーブは、SV-2 Editorを使用してのみプログラムすることができます。

**注意:** チューニング・カーブはフェイバリット・サウンドを保存すると一緒に保存されます。

## プログラム・レベルの調節

サウンドは最大3つのプログラムで構成されているものもあり、それらの音量レベルは、好みに合わせて調節することができます。

- 1 **FUNCTION**ボタンを押します。ランプが点滅します。  
**EQUALIZER**セクションの、各ノブのランプの1つが点滅します。対応するノブの周りのランプは消灯しています。
- 2 ノブを回してプログラム・レベルを調節します。ノブの周りのランプが、プログラムのボリュームの最も近い値を示します。
- 3 ノブを押すと、デフォルト値に戻ります。サウンドをデフォルト値に戻すときは、同じファクトリーまたはフェイバリット・サウンドを再度選択します。
- 4 約1秒間ノブを長押しすると、該当するプログラムがオンまたはオフ(ミュート)に切り替わります。

**注意:** プログラム・レベルはフェイバリット・サウンドを保存すると一緒に保存されます。

## スプリット・ポイントの変更

鍵盤をスプリット機能で分割する位置、すなわちスプリット・ポイントを設定します。スプリットに設定されているサウンドが対象です。

- 1 **LOCAL OFF** ボタンを約 1 秒間押し、ランプを点滅させます。
- 2 点滅中に、スプリット・ポイントにする **鍵盤** を押します。スプリット・ポイントが変更され、ランプが消灯します。

鍵盤を押さないで数秒経過すると、スプリット・ポイントは設定されずに、プログラムは終了します。

**注意:** スプリット・ポイントはフェイバリット・サウンドを保存すると一緒に保存されます。

## タッチ感度の変更

鍵盤を弾く強さによる音量変化の度合いを設定します。

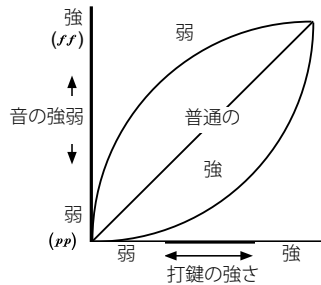
- 1 **TOUCH** ボタンを押します。

このボタンを押した後、ボタンのランプが点滅します。また、選択したタッチ・カーブに該当する FAVORITE ボタンが点滅します。

- 2 **FAVORITE** ボタンでタッチ・カーブを選びます。

フェイバリット	タッチ・カーブ	説明
1	Normal (標準)	普通のピアノ・タッチ
2	Soft 1 (ソフト1)	弱く弾いても強音が出せるタッチ
3	Soft 2 (ソフト2)	
4	Medium 1 (ミディアム1)	普通の強さで弾いても強音が出せるタッチ
5	Medium 2 (ミディアム2)	
6	Hard 1 (ハード1)	強く弾かないと強音が出せないタッチ
7	Hard 2 (ハード2)	
8	Fixed (固定)	ダイナミクスは一定 ダイナミクスはSV-2 Editorで設定します。

タッチ・カーブは下図のようになります。

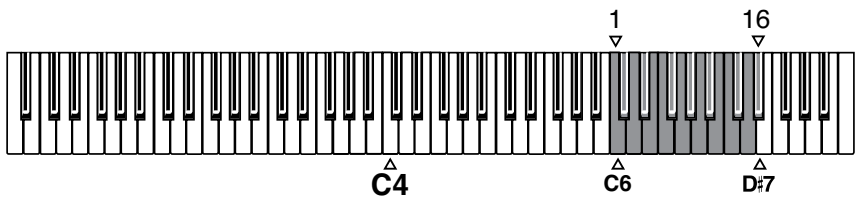


- 3 TOUCHボタンを押してタッチ・カーブを確定します。演奏できる状態に戻ります。  
注意: タッチ感度はフェイバリット・サウンドを保存すると一緒に保存されます。

## MIDIチャンネルの設定

SV-2が別の楽器やコンピューターとデータのやり取りをするMIDIチャンネルを設定します。

- 1 FUNCTIONボタンを押します。ランプが点滅します。
- 2 送受信を行うMIDIチャンネルをC6～D#7の該当する鍵盤を押して、設定します。



鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル
C6	1	E6	5	G#6	9	C7	13
C#6	2	F6	6	A6	10	C#7	14
D6	3	F#6	7	A#6	11	D7	15
D#6	4	G6	8	B6	12	D#7	16

- 3 設定が完了したら、FUNCTIONボタンを押して終了します。

## ローカル・オフ機能

ローカル・オフ機能を無効(ローカル・オン)または有効(ローカル・オフ)にします。

- **ローカル・オフ**：LOCAL OFF ボタンを押してランプを点灯させます。

鍵盤と内部音源の接続が切られ、鍵盤を弾いてもSV-2の音源は鳴りません。このとき、MIDIデータは**MIDI OUT**端子(または**USB**端子)から送信されます。

コンピューターなどでMIDIデータを受信した場合、エコー・バック(コンピューターが受信したMIDIデータを、SV-2の**MIDI IN**端子または**USB**端子に送信すること)を設定したときは、SV-2をローカル・オフに設定します。これによって、二重に発音することなく、演奏やレコーディングが行えます。

- **ローカル・オン**：LOCAL OFF ボタンを押してランプを消灯させます。

鍵盤を弾くと内部音源が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。通常はローカル・オンに設定します。

**注意**：本機の電源をオフにすると、ローカル・オフ機能はリセットされます。

## MIDIの音が止まらないときは

MIDI通信でMIDIノートの発音が止まらなくなった場合は、**EQUALIZER**のセクションの**On/Off**ボタンを長押しし、音が止まるまで待ってください。



## ペダルのキャリブレーション

**DAMPER**、**PEDAL 1**、**PEDAL 2**端子に接続した各ペダルをキャリブレーションします。ペダルをキャリブレーションすることで、SV-2にその極性と可変範囲を認識させます。

- 1 キャリブレーションを行うすべてのペダルをSV-2に接続します。  
**DAMPER**端子には付属のコルグDS-2Hダンパー・ペダル（または別のフット・スイッチ）を、**PEDAL 1**にはフット・スイッチを接続します。**PEDAL 2**には、フット・スイッチまたはボリューム/エクスプレッション・ペダルを接続します。
- 2 ボリューム/エクスプレッション・タイプのペダルは、最小値（手前に戻しきる）に設定します。
- 3 SV-2の電源をオフにします。
- 4 **Auto/Pedal**ボタンを押しながら、SV-2の電源をオンにします。
- 5 **Auto/Pedal**ボタンのランプが点滅を始めたら、ボタンから指を離します。この後、何もしないで数秒経過すると、**Auto/Pedal**ランプが消灯して演奏できる状態になります。
- 6 **Auto/Pedal**ランプが点滅している間に、ボタンをもう一度押します。SV-2はキャリブレーション・モードに入ります。
- 7 **PEDAL 1**（フット・スイッチ）のキャリブレーションを開始します。ペダルを完全に踏み込んでから離します。  
**PEDAL 1**端子に接続したペダルの調整が完了すると、**FAVORITES 1**ボタンが点灯します。
- 8 次に**PEDAL 2**をキャリブレーションします。使用するフット・スイッチやボリューム/エクスプレッション・ペダルによって、手順は異なります。
  - フット・スイッチを接続した場合は、ペダルを完全に踏み込んでから離します。
  - ボリューム/エクスプレッション・ペダルを接続した場合は、ペダルを最大位置（奥に踏み込む）にします。**PEDAL 2**端子に接続したペダルの調整が完了すると、**FAVORITES 2**ボタンが点灯します。
- 9 最後に**DAMPER**ペダルをキャリブレーションします。ペダルを完全に踏み込んでから離します。**DAMPER**端子に接続したペダルの調整が完了すると、**FAVORITES 3**ボタンが点灯します。
- 10 キャリブレーションを終了します。
  - 3つのペダルに対してキャリブレーションを行った場合  
自動的にキャリブレーション・モードが終了し、演奏できる状態になります。
  - 1つまたは2つのペダルに対してキャリブレーションを行った場合  
**Auto/Pedal**ボタンを押すと、キャリブレーション・モードが終了し、演奏できる状態になります。

## コントロール・パネルのロック

ここまででサウンドとエフェクトの変更方法を紹介してきました。次はこの状態をそのまま変わらないようにするための方法について説明します。演奏中にセッティングを不注意で変えてしまわないように、これは役立つ情報です。

- 1 **TOUCH** ボタンと**FUNCTION** ボタンを同時に押し、コントロール・パネルをロックします。それぞれのランプが点滅します。

ここでコントロールできるのは**MASTER VOLUME**ノブと**電源**スイッチだけになります。

- 2 **TOUCH** または**FUNCTION** ボタンのどちらかを押し、コントロール・パネルのロックが解除されます。

**注意:** 本機の電源を切ると、ロック機能はリセットされます。

## 工場出荷時の設定に戻す

SV-2は、工場出荷時の状態（フェイバリット・サウンドやグローバル設定を含む）に戻すことができます。

- 1 本機の電源を切ります。
- 2 **FUNCTION** ボタンを押しながら、本機の電源をオンにします。
- 3 ボタンのランプが点滅を始めたら、**FUNCTION** ボタンから指を離します。
- 4 **FUNCTION** ボタンをもう一度押ししてリストア操作を確定します。
- 5 これですべての設定が工場出荷時の設定に戻ります。

## オペレーティング・システム・バージョンの確認

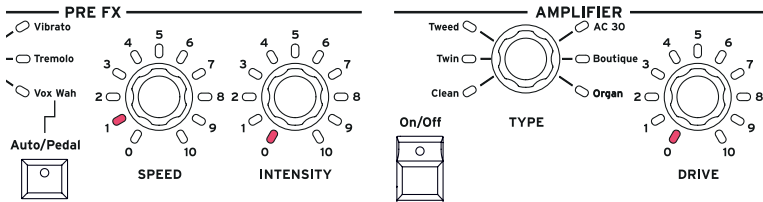
オペレーティング・システムのバージョンを確認して最新のバージョンがインストールされているかどうかを確認することができます。

- 1 SV-2の電源をオンにします。
- 2 **PRE FX**セクションの**SPEED**ノブと**INTENSITY**ノブを同時に押します。

オペレーティング・システムのバージョンは「x.y.z」で示され、例えば、「1.0.0」はメジャー・リリース1、マイナー・バージョン0、パッチ(フィックス)0を意味します。

**SPEED**ノブの周り数値はオペレーティング・システムのバージョンの最初の(x)を、**INTENSITY**ノブの周りの数値は2番目の(y)を表し、**AMPLIFIER**セクションの**DRIVE**ノブの周りの数値は3番目の(z)を表します。

以下の例がOS V1.0.0を表します：





# SV-2 EDITOR

# SV-2 Editorについて

## エディターとは？

SV-2ステージ・ビンテージ・ピアノのために用意されたSV-2 Editorを使用することで自分だけのサウンドを作ることができます。SV-2自身の編集機能は最小限に抑えて、簡潔に使いやすくしました。そしてSV-2 Editorを使用することでSV-2のすべてのパラメーターにフルアクセスできます。

エディットが終わったら、サウンドとフェイバリット・セッティングをSV-2またはコンピューター上のファイルに保存することができます。SV-2 Editorのファイルの形式はWindowsでもMacでも同じなので、ファイルを簡単にやり取りすることができます。SV-2 Editorは、すべてのサウンドと設定を管理するのに便利なライブラリアンです。

SV-2 Editorを使って、SV-2のサウンド・パラメーターや一般的な設定を快適に確認したり、エディットしたりすることができます。

- 既存のサウンド（ファクトリーまたはフェイバリット）をエディットする
- チューニング・カーブを含むグローバル設定をエディットする
- ギグやプロジェクトごとに独自のセットを作成する
- サウンド・ライブラリーを作成し、他のSV-2ユーザーと交換する
- コルグまたは他社から提供される追加のライブラリーをロードする
- 複数のライブラリーからサウンドを組み合わせる
- フェイバリット・サウンドの順序を変更する
- 使う予定のないサウンドを気に入ったサウンドと入れ替える

# ソフトウェアをインストールする

## SV-2付属のソフトウェア

SV-2 Editorの最新のバージョンは、コルグ・ウェブサイト( [www.korg.com](http://www.korg.com) )からダウンロードすることができます。

## 動作環境

SV-2 Editorをインストールするには、以下の仕様を満たしたコンピューターが必要です。

- Microsoft Windows 7、8、10 (32または64ビット)が動作するコンピューター
- macOS Sierra 10.12.6が動作するMac以降。  
(macOSの旧バージョンでも互換性があるものがありますが、正式にはサポートされていません)
- 解像度1024 x 768ピクセル以上のディスプレイ

## KORG USB-MIDIドライバーをインストールする

Windowsでご使用になる場合は、SV-2 Editorをインストール前に、コルグ・ウェブサイト( [www.korg.com](http://www.korg.com) )よりKORG USB-MIDIドライバーをダウンロードし、付属のドキュメントに従ってインストールしてください。

**注意:** 最新のOS対応状況については、コルグ・ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.korg.com/support/os/>

**注意:** 最初にコンピューターに接続すると、自動的にOS内蔵のUSB-MIDIドライバーがインストールされます。

## SV-2 Editorをインストールする

SV-2 Editorをインストールするには、以下の手順に従ってください。(WindowsとMacとでは画面表示は異なりますが、インストーラーは同じように機能します)。

### ソフトウェアをインストールする

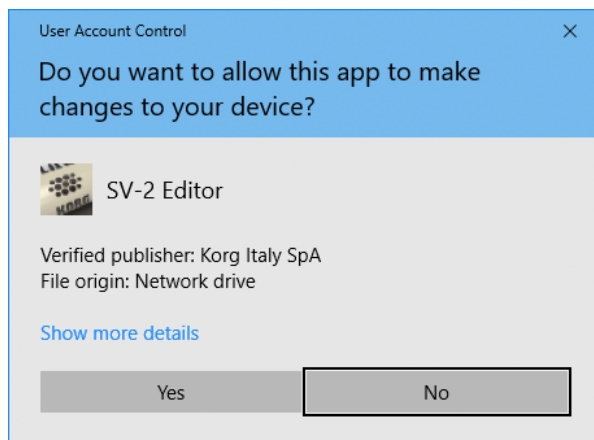
- 1 SV-2 Editorのインストーラーをコルグ・ウェブサイト( [www.korg.com](http://www.korg.com) )からダウンロードして起動します。



SV-2 Editor Installer

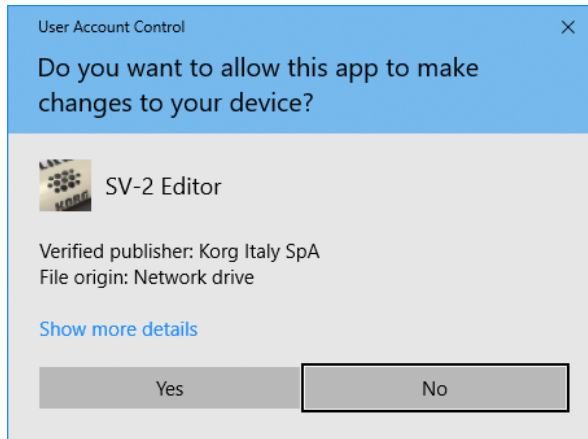
- 2 新しいソフトウェアをインストールするにあたり、認証を促すメッセージが表示されます。

Windowsでは、**Yes**をクリックして確定します。

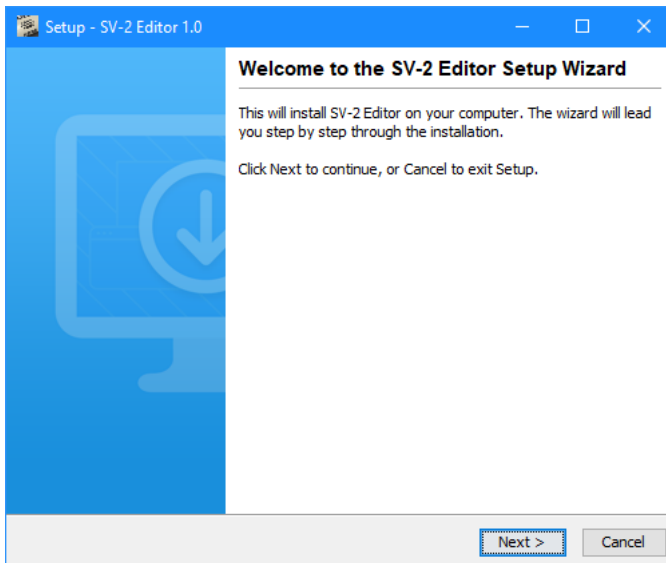




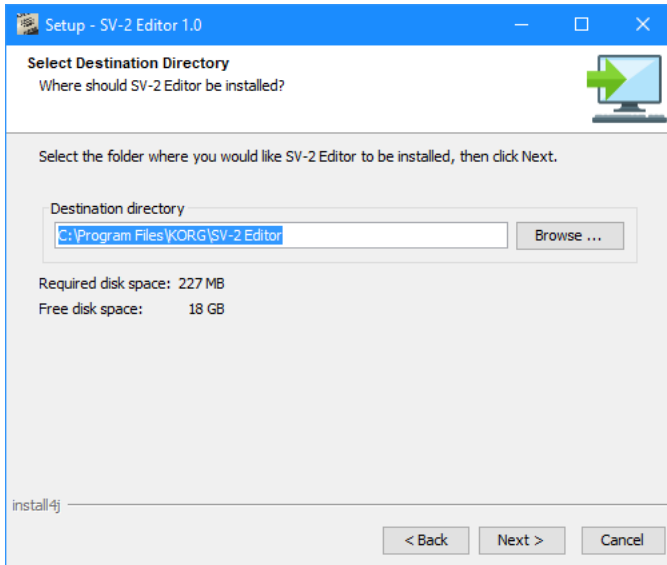
Macでは、ご自身のMacユーザー・ネームとパスワードを入力し、**OK**をクリックして確定します。



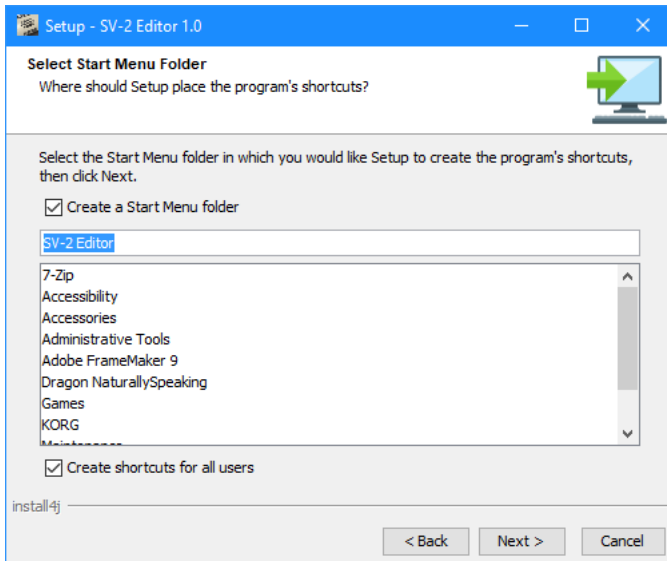
- 3 初期画面が表示されます。**Next >**をクリックして次へ進むか、**Cancel**をクリックしてキャンセルします。



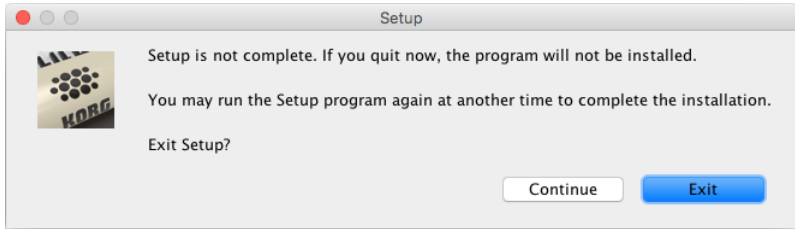
- 4 SV-2 Editorアプリケーションのインストール先となるディレクトリー（フォルダー）を示すダイアログが表示されます。別のインストール先を選択する場合は**Browse**をクリックします。あるいは、確定して次へ進む場合は**Next >**をクリックします。



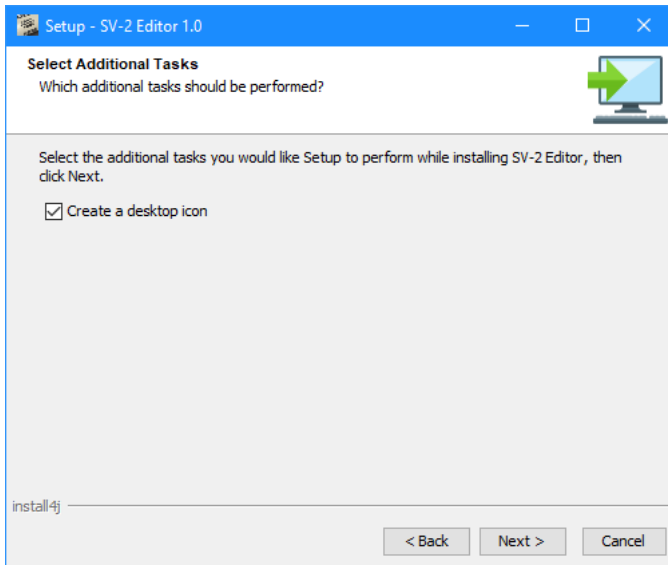
- 5 Windowsでは、SV-2 Editorのアイコンを**Windowsメニュー**のどこに配置するかを選択します。



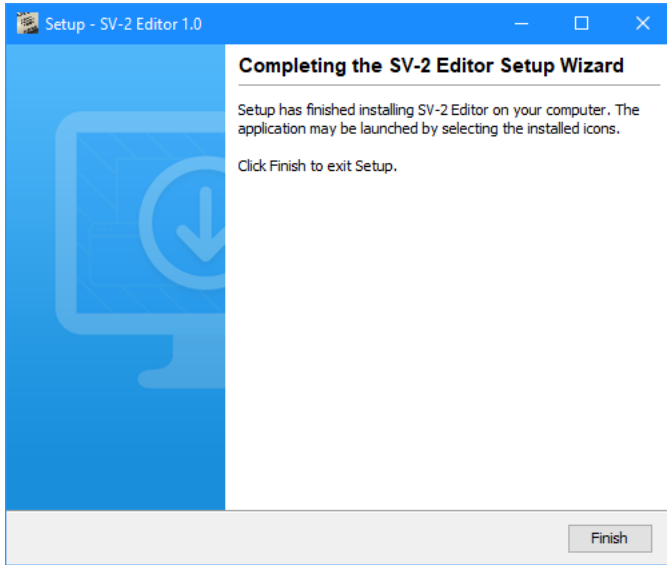
- 6 **Cancel**をクリックしてインストールを停止すると、警告メッセージが表示されます。**Exit**をクリックしてインストールを停止するか、**Continue**をクリックしてインストールを再開します。



- 7 **Next >**をクリックすると、必要なファイルがインストールされます。プログレス・バーに進捗状況が表示されます。
- 8 Windowsでは、デスクトップにアイコンを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。**Next >**をクリックして確定します。

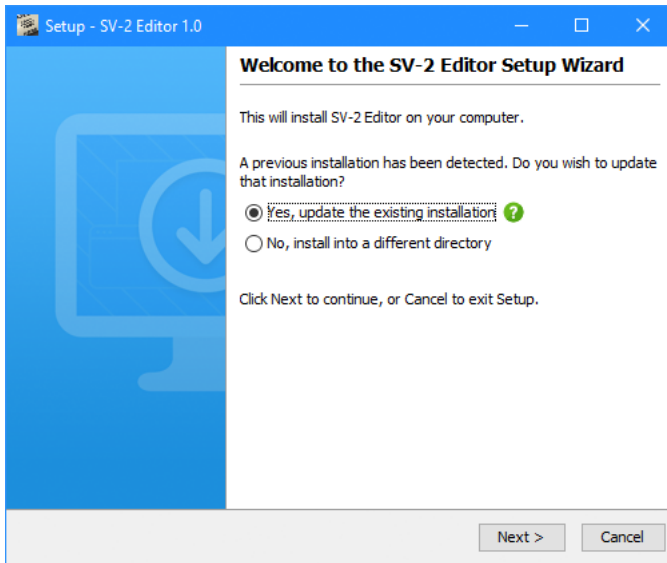


- 9 確認のためのダイアログが表示されます。**Finish**をクリックしてインストーラーを終了します。



## ソフトウェアをアップデートする

ソフトウェアの最新バージョンがリリースされたら、インストーラーを起動してファイルをアップデートしてください。アップデートはすべて自動で行われます。



# SV-2 Editorを実行する

## SV-2とコンピューターをUSBで接続する

SV-2 Editorを使用する前に、USBケーブルを使用してSV-2とコンピューターを接続してください。

USBハブによっては、SV-2に対応していない場合がありますので注意してください。SV-2とコンピューターを接続したときに問題が生じた場合は、ハブを取り外し、SV-2を直接コンピューターのUSBポートへ接続してください。

## SV-2の電源をオンにする

SV-2 Editorのすべての機能を使用するためには、ソフトウェアを起動する前にSV-2を接続して電源をオンにする必要があります。そうでない場合、バックアップのセットを管理する**Backup**ページしか使用できません。

エディターの使用中にコンピューターがスリープ・モードに入ったり、SV-2がオート・パワー・オフが実行されたりして、相互間の接続が中断される可能性があります。この場合は、両方を起動させ、SV-2 Editorをいったん終了してから再び起動してください。SV-2 Editorの使用中にコンピューターとSV-2の接続が中断しないように、設定し直すことをお勧めします。

SV-2の電源をオンにすると、コンピューターがスリープ・モードを終了する場合があります。これは、SV-2がアクティブな状態に戻ったことをUSBポートで感知するため、通常の動作です。

## SV-2エディターを起動する

アプリケーションのアイコンをダブルクリックします。



SV-2 Editor

SV-2 Editorを起動すると、SV-2のメモリーの内容がエディターに転送されます。転送が完了するまでお待ちください。



**注意:** SV-2とエディターの中のプログラムが合致しない場合、エラー・メッセージが表示されます。その場合は、SV-2 Editorを更新してください。

# SV-2エディターの概要

## メイン画面

SV-2 Editorを実行すると、次のようなメイン画面が表示されます。



見やすいレイアウトで、以下のさまざまなセクションを簡単に把握できるように構成されています。

## メニュー

画面の一番上にあるメニュー・バーには、ディスク上のデータを管理するコマンドや、データをSV-2に転送するコマンド、アプリケーションの環境を設定するコマンドなどが表示されます。これらの詳細については、後ほど本マニュアルの中で説明します。

File Edit Option About

## サウンドの名前

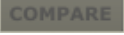


選択したサウンドの名前は、エディターの中央上部に表示されます。



MK I Suitcase

## COMPAREボタン

COMPAREボタンを押すと、オリジナルのサウンドを聴いて、オリジナルとエディット中のサウンドを比較することができます。

- パラメーターをエディットしていない場合、ボタンはグレーになり使用できません。 
- パラメーターを1つまたは幾つかエディットした場合、ボタンは有効になります。SV-2でパラメーターの状態を検出することができます。ノブを回してパラメーターの値を元に戻すと、ボタンはグレーになり、再び無効になります。 
- ボタンをクリックして一時的に元の設定に戻すと、ボタンは点滅し始めます。この場合、オリジナルのサウンドを聴くことはできますが、エディットすることはできません。COMPAREボタンをもう一度クリックすると、エディットしたプリセットに戻ります。 

## ページ

パラメーターは4ページの中から選択することができます。エディット・エリアの上に表示されている該当タブを使用してアクセスします。そこに含まれているパラメーターの詳細については、後ほど本マニュアルの中で説明します。



SOUND

FX

GLOBAL

BACKUP

ページは以下のとおりです。

- **Sound**ページで、選択したサウンドをエディットします。ここでプログラムを選択し、それらのボリュームとイコライザーやレイヤーを調節したり、キーボード上でそれらをスプリットすることができます。
- **FX**ページで、サウンドのエフェクトをエディットします。
- **Global**ページで、グローバルの設定をエディットします。
- **Backup**ページで、SV-2のデータの交換や、サウンドのライブラリーを管理することができます。



**注意:** SV-2の電源がオフになっていたり、接続されていない場合は、Backupページしか使用できません。

## サイド・パネル

選択したサウンドやチューニング・カーブにエディットを加えます。画面右側に表示されたサイド・パネルにアクセスし、その中のリストから選択します。



## ノブ

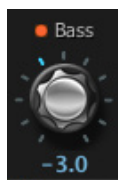
ノブを回して、対応するパラメーターの値をエディットします。ノブをクリックし、値を上げる場合は上へドラッグし、下げる場合は下へドラッグします。

ノブを選択すると、オレンジ色になります。この状態で、コンピューターのキーボード上の上下左右の矢印キーを使用して、より精密に値を変更することができます。

ノブをダブルクリックすると、対応するパラメーターの値がデフォルト値に戻ります。これはSV-2のフロント・パネル上のノブを押す操作と同じです。



エディターのノブにSV-2のフロント・パネルのノブを再現させると、ノブの上に赤い点が表示されます。



フロント・パネルのノブを  
再現



フロント・パネル上でノブは  
使用できません

**注意:** パラメーターの名前は、SV-2のフロント・パネルの実際のノブの名前と異なる場合があります。

# エディット作業の流れ

SV-2 Editorの使い方はとても簡単で、最も気に入った方法で自由にエディットすることができます。とはいえ、SV-2をコンピューターと接続し、データをやり取りするには、必ず以下の手順に従って行ってください。

- 1 USBケーブルを使用してSV-2をコンピューターに接続します。
- 2 SV-2の電源を入れます。
- 3 SV-2 Editorを起動し、SV-2のメモリーの内容がエディターに転送されてサイド・パネルに表示されるまで待ちます。

ディスクに保存されたデータをロードすることもできます（ロードするデータは、過去にエディットしたものでも、ウェブサイトからダウンロードしたものでも構いません）。

- 4 「Sound」、「FX」または「Global」ページへ進み、データをエディットします。

変更内容はすぐにSV-2に反映されるため、キーボードを演奏しながらそれらを聴くことができます。ただし、この時点では、変更内容はまだのSV-2メモリーに保存されていません。

- 5 サイド・パネルの**WRITE FAVORITE**ボタンをクリックして、変更内容をSV-2のメモリーに保存します。
- 6 エディットしたデータのすべてと共に**バックアップ・セット**を作成する場合は、サイド・パネルの**BACKUP ALL DATA**ボタンをクリックします。

**Save**ダイアログが表示されます。新しいバックアップ・セットの名前を入力し、ディスク上の保存場所を選択して確定します。

- 7 SV-2 Editorを終了します。
- 8 USBケーブルを外します。
- 9 新しいサウンドをお楽しみください！

# サイド・パネル

サイド・パネルにはSV-2の内蔵メモリー上に収録されている内容が反映されています。これは、SV-2のフロント・パネルの**Sound**と**Favorites**セクションと同じで、使用可能な**チューニング・カーブ**のリストも追加されています。

## ファクトリー、フェイバリット、カーブ・リスト

各リストで、エディットするファクトリー、フェイバリット・サウンドまたはチューニング・カーブを選択します。また、エディット後に現在の変更内容をSV-2のユーザー・メモリーに保存するためのコマンドにアクセスすることができます。



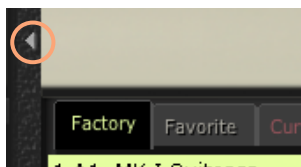
### リストを選択する

このセクションの上部にあるタブをクリックすると、対応するリストが表示されます。



### サイド・パネルを表示/非表示にする

サイド・パネルを表示または非表示にするときは、サイド・パネルの左上にある小さな矢印をクリックします。



## リストからアイテムを選択する

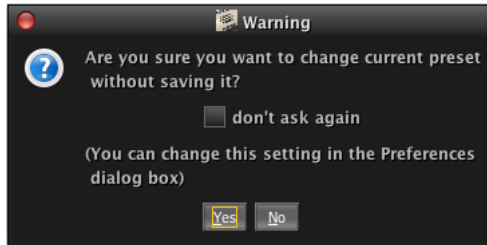
リストが表示されたら、選択するアイテムをクリックします。

アイテムの最初の文字を入力すると、そのアイテムがリストの中で選択されます。再びその文字を入力すると、同じ文字で始まる名前の次のアイテムが選択されます。

例えば、「W」を入力すると、「Wurly」が最初の候補として選択されます。再び同じ文字を入力すると、次の候補(この場合は、「Wurly Dark」)が選択されます。

## 別のサウンドを選択した場合

設定した環境にもよりますが、まだ保存されていない変更内容がある状態で、別のサウンドを選択すると、変更内容が消失することを警告するメッセージが表示されます。



変更内容を削除する場合は、**Yes**をクリックして別のサウンドを選択します。変更内容を確認する場合は**No**をクリックしてキャンセルします。

**注意:** このダイアログを非表示にするときは、「Don't ask again」のチェック・ボックスにチェックを入れます。また、Preferences からこの動作を設定することもできます (page 61参照)。

## リスト・コマンド

サイド・パネルの下に2つのボタンがあります。このボタンを使ってSV-2の内蔵メモリーまたはコンピューターのディスクに変更内容を保存します。

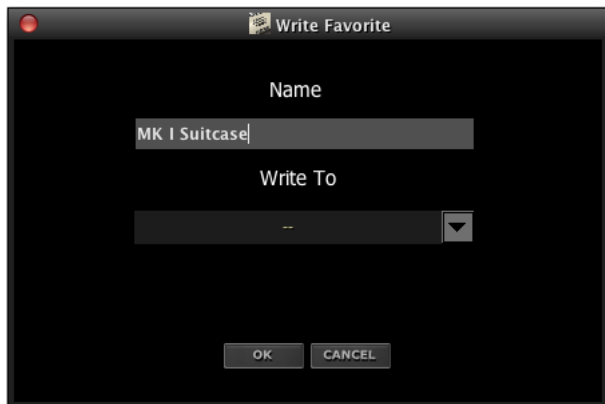


## WRITE FAVORITE

このボタンをクリックすると、現在のサウンド（リストの中で選択した1つ）に加えた変更内容がSV-2のメモリー内のフェイバリットの中に保存されます。

**注意:** ファクトリーの場所は常に上書きされないように保護されているため、変更内容を保存できるのはフェイバリットの中だけです。

- 1 このコマンドをクリックします。 **Write Favorite**ダイアログが表示されます。



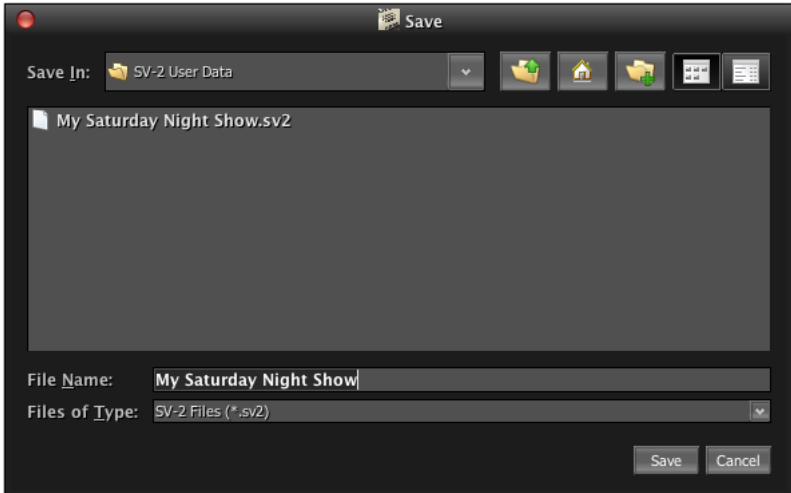
- 2 ファイバリット・サウンドの**名前**を入力します。
- 3 **Write To**ポップアップ・メニューを使って、フェイバリット・サウンドの保存先を選択します。
- 4 **OK**をクリックして保存を確定します。または、**Cancel**をクリックして保存をキャンセルします。

**警告:** 確定することにより、保存先のデータはすべて削除されて上書きされます。

## Backup All Data

このボタンをクリックすると、SV-2のメモリーのすべてのデータが、バックアップ・セットとしてディスクに保存されます（ファイルの拡張子は\*.sv2）。エディットしたサウンドをすべてコンピューターのディスクへアーカイブとして保存し、後で使うときには便利です。

- 1 このコマンドをクリックします。 **Save**ダイアログが表示されます。



- 2 新しいバックアップ・セットのファイルの名前 (**File Name**) を付けます。
- 3 保存場所を選択します。
- 4 **Save**をクリックして確定します。または、**Cancel**をクリックして保存せずに終了します。

# Soundページ

サウンドページでは、プログラムのオン/オフの切り替え、ボリュームの調節、イコライザーの使用、ペダルの設定により、選択したサウンドをエディットします。

エディットしたサウンドは、サイド・パネルの**WRITE FAVORITE**ボタンをクリックすることで、フェイバリット・サウンドとしてSV-2のメモリーに保存することができます(60ページの「WRITE FAVORITE」を参照参照)。



## プログラムを有効/無効にする

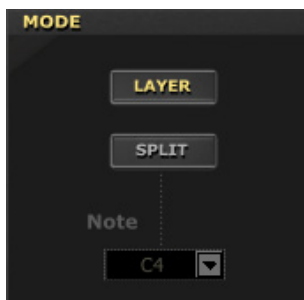
プログラム・エリアの左側の**On**ボタンを使って、各プログラムを有効または無効にします。



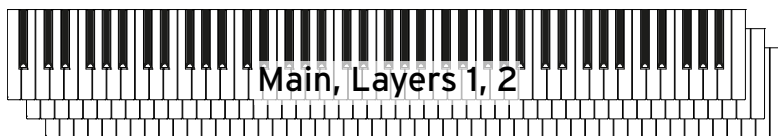


## 鍵盤のレイヤー機能とスプリット機能

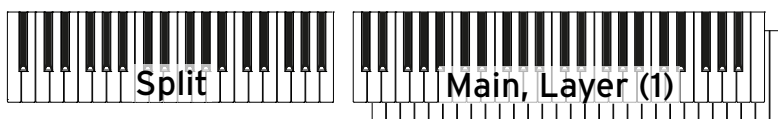
**Mode**セクションのボタンを使って、鍵盤のレイヤー機能とスプリット機能を使用します。



- **LAYER**を選択すると、鍵盤全体で最大3つのプログラムを重ねて配置します。



- **SPLIT**を選択すると、鍵盤を分割して、左側で1つのプログラムを、右側で最大2つのプログラムを配置します。



スプリット機能を有効にすると、**Note**メニューで鍵盤を分ける位置を設定できます。

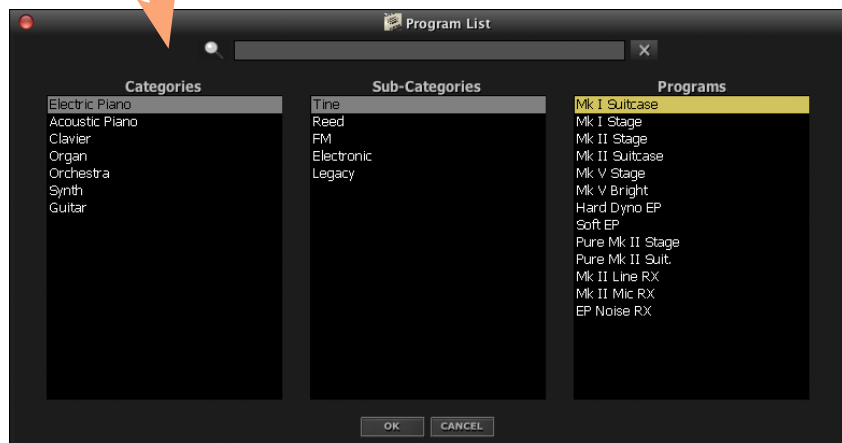
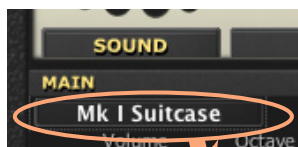
## 基本パラメーター

1つのサウンドを構成する3つの要素それぞれに1つのプログラムを選択することができます。1つのプログラムは1つの基本となる音色です。その音色1つのみで、または他に1つまたは2つのプログラムを合わせて1つのサウンドになります。



### プログラムを選択する

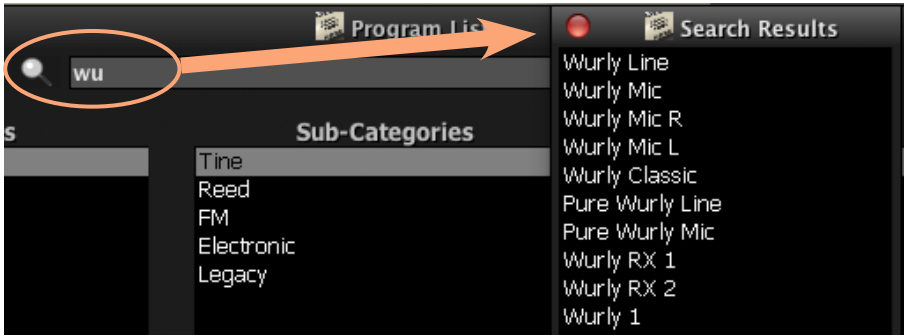
プログラムを選択する場合は、アサインしたプログラムの名前 (例では「MK I Suitcase」) をクリックしてプログラム・リストを開きます。



プログラム・リストが表示されます。カテゴリーから1つ選択し、次にその中のサブ・カテゴリーから1つ、さらにプログラムの中から1つ選択します。

ファクトリー・バンクには含まれていない、従来のSV-1のサウンドを加えた「Legacy」サブ・カテゴリーも用意されています。これはSV-1で愛されたサウンドを作成するのにとても便利です。

プログラムを検索する場合は、ブラウザーのSearchフィールドの中でその名前を入力します。検索結果はSearch Resultsリストに表示されます。リストのアイテムをクリックして選択します。



プログラムを選択した後、OKをクリックして選択を確定します（または何も選択しないで終了するときは、Cancelをクリックします）。または、プログラムの名前をダブルクリックすることで、迅速に選択してリストを終了させることができます。

すべてのプログラムのリストについては、116ページの「プログラム」を参照してください。

## プログラムのボリュームを調節する

Volumeノブを使って、プログラムのボリュームを調節します。

パラメーター	値	詳細
Volume	0~127	プログラムのボリュームを調節します。

## オクターブとデチューンを調節する

Octaveノブを使ってオクターブを設定し、Detuneノブを使ってプログラムをセント単位で微調整します。

パラメーター	値	説明
Octave	-3~3	プログラムを1オクターブ単位で上下に移調します。
Detune	-64~63	プログラムのピッチを-64で1/4トーン下がり、63で1/4トーン上がります。

## エフェクトをバイパスする

サウンドのエディット中に、エフェクトをかけないドライ音でプログラムを聴くことができます。あるいは、サウンドをドライ音をそのまま残すこともできます（例えば、ピアノのメカニカルなノイズ音など）。

その場合は**FX Bypass**ボタンをクリックしてオンにします。これにより、プログラムから**FX**ページに表示されたエフェクトすべてが外されて適用されなくなります。

## Equalizer セクション

イコライザーをオンまたはオフに切り替えて、プログラムを調整します。**On**スイッチを使ってイコライザーのオン/オフを切り替えます。



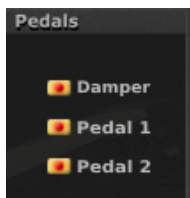
イコライザーのノブを使って、プログラムの音色を調整します。

**ヒント:** FXページのサウンド全体に、1つのエフェクトとしてより詳細なイコライザー機能を加えることができます。これとは異なり、すべてのプログラムに対して同時に1つを適用することもできます。

パラメーター	値	説明
Bass	-18~18	低域の周波数ゲインを調節します。
Middle	-18~18	中域の周波数ゲインを調節します。
Treble	-18~18	高域の周波数ゲインを調節します。

## Pedalsセクション

プログラムに適用するペダルのオン/オフを切り替えます。



## TOUCHセクション

鍵盤の感度またはタッチを、サウンド全体にプログラムすることができます。**TOUCH**ノブを使って、タッチ・カーブの1つを選択します。



設定	タッチ・カーブ	説明
N	Normal	通常のピアノ・タッチ
S1	Soft 1	弱く弾いても強音が出せるタッチ
S2	Soft 2	
M1	Medium 1	普通に弾いても強音が出せるタッチ
M2	Medium 2	
H1	Hard 1	強く弾いてのみ強音が出せるタッチ
H2	Hard 2	
F	Fixed	固定ダイナミック値。設定は以下を参照。

選択したタッチ・カーブは、サイド・パネルの**WRITE FAVORITE**ボタンをクリックすることで、SV-2のメモリー内の各フェイバリット・サウンドに保存することができます。

### 固定タッチ値を設定する

Fixedカーブを選択した場合は、フィールドに入力する固定値がノブの値よりも優先されます。

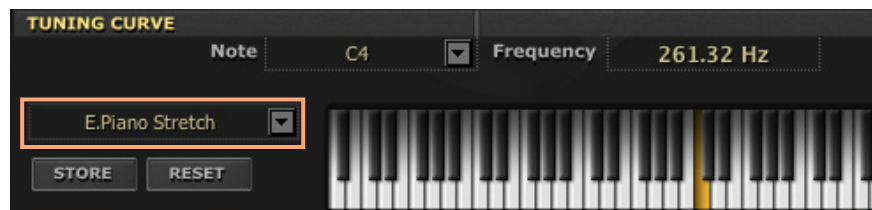


## TUNING CURVEセクション

SV-2には、いくつかのチューニング・カーブ（スケール）が用意されています。それぞれのスケールでは、オリジナルのキーボード・メーカーによって採用されたオリジナルのチューニングが再現され、その楽器に合った響きを出すことができます。

### チューニング・カーブを選択する

鍵盤表示の左側にあるポップアップ・メニューからチューニング・カーブを選択します。



選択したチューニング・カーブは、サイド・パネルの**WRITE FAVORITE**ボタンをクリックすることで、SV-2のメモリー内の各フェイスリット・サウンドに保存することができます。

**注意:** チューニング・カーブのエディットは、ノートごとに設定します。他のオクターブには反映されません。

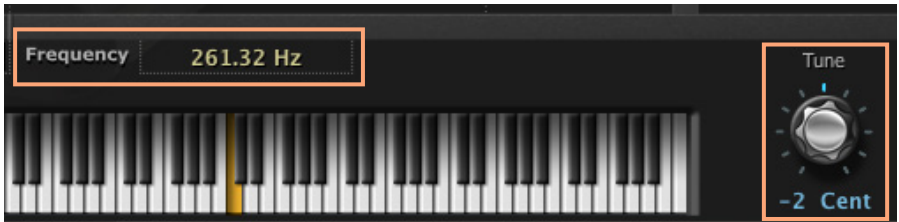
- 1 チューニング・カーブの名前を選択して、ポップアップ・メニューを開きます。
- 2 使用可能なカーブを1つ選択します。

チューニング・カーブ	説明
Equal Temperament	平均律。一般的に広く使われている音律で、各半音のピッチの変化幅が同じになっています。
G.Piano 1 Stretch	アコースティックやエレクトリック・ピアノのストレッチ・チューニングの再現です。平均律に比べ、低音側はより低く、高音側はより高く設定するピアノ独特の調律です。
G.Piano 2 Stretch	
E.Piano Stretch	
Electric Grand	
Upright Stretch	
User 1, 2	ユーザー用カスタム・スケールです。

## ユーザー・チューニング・カーブをエディットする

チューニング・カーブをエディットして、2つのユーザー・チューニング・カーブのどちらかに保存できます。サイド・パネルの**Curve**リストからユーザー・チューニング・カーブを選ぶことができます。

- 1 鍵盤表示の左側のポップアップ・メニューからエディットするチューニング・カーブを選択します。
- 2 鍵盤表示でエディットするキー(ノート)をクリックします(または**Note**ポップアップ・メニューから選択します)。
- 3 **Tune**ノブで、ノートのチューニングを変更します。ノートをセント単位で調整します(1セント=半音の1/100)。ピッチが**Frequency**にヘルツ(Hz)で表示されます。



- 4 エディットするノートごとに、上記の手順を繰り返します。
- 5 **STORE**ボタンをクリックして変更を保存します。**Save Tuning Curve**ダイアログが表示されます。



**USER 1**または**USER 2**を選択し、名前を付けます。**OK**をクリックして保存を確認します。または**Cancel**をクリックして保存しないで終了します。

その後、サイド・パネルの**Curve**リストに新しいチューニング・カーブが表示されます。

- 6 変更内容を削除して平均律に戻りたい場合は、**RESET**ボタンをクリックします。

# FX ページ

FXページにはサウンド全体に適用するすべてのエフェクトのパラメーターが含まれています。これはSV-2のフロント・パネル上のさまざまなエフェクト・セクションと同じです。とはいえ、エディターには更に多くのパラメーターが用意されています。

エディットしたエフェクトは、サイド・パネルの**WRITE FAVORITE**ボタンをクリックすることで、フェイバリット・サウンドとしてSV-2のメモリーに保存することができます。60ページの「WRITE FAVORITE」を参照してください。

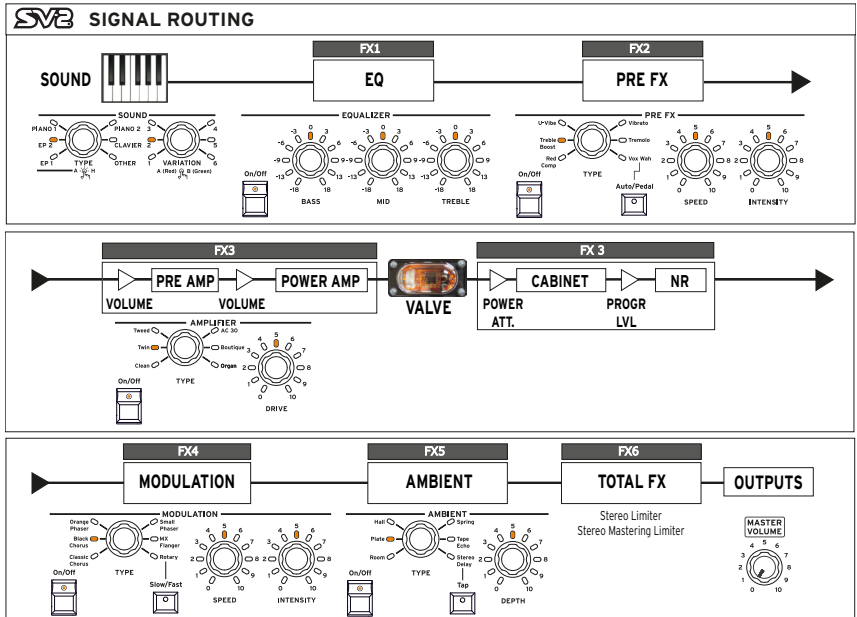




## エフェクト・チェーン

EQとペダル(ストンプボックス)エフェクトは、アンプ・モデルとキャビネット・モデルの前に配置し、モジュレーションやリバーブ/ディレイはキャビネット・モデルの後に配置します。最後に、リミッターでダイナミクスを処理します。

モジュレーション、ディレイ、エコー、リバーブ・エフェクトがアンプ・モジュールの後に置かれる理由は、通常それらが、マイクでとらえたキャビネットからの信号に加えるエフェクトであるからです。

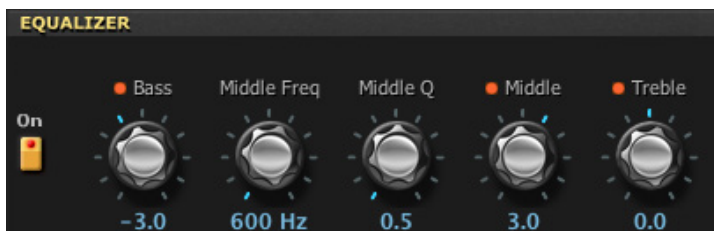


エフェクト・チェーンは変更することはできません。とはいえ、各セクションは個々にオンまたはオフに切り替えることができます。各エフェクトの横にあるボタンをクリックして、対応するセクションをオンまたはオフにします。

**Sound**ページでFX Bypassスイッチをオフに設定したすべてのプログラムを含め、すべてのエフェクトが、サウンド全体に適用されます。

## EQUALIZERセクション

パラメトリック・イコライザーで、Pre FXの前に配置されます。



Onスイッチで、EQUALIZERセクションのオンとオフを切り替えます。

パラメーター	値	説明
Bass	-18~18 [dB]	低域の周波数ゲインを調節します。
Middle Freq	50Hz~10.0kHz	中域の周波数を設定します。
Middle Q	0.5~10.0	中域の帯域幅を設定します。値が高いほど帯域幅は狭くなります。
Middle (Gain)	-18~18 [dB]	中域の周波数ゲインを調節します。
Treble	-18~18 [dB]	高域の周波数ゲインを調節します。

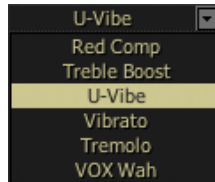
## PRE FXセクション

Pre FXはアンプの前に配置されます。

Onスイッチで、PRE FXセクションのオンとオフを切り替えます。

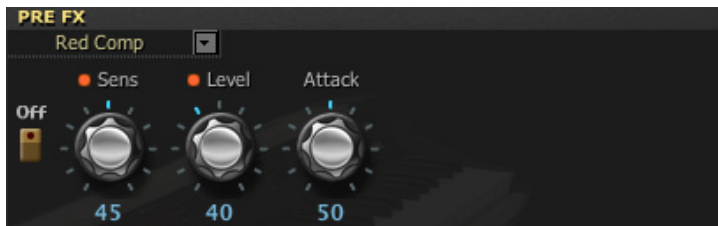
### Pre FXペダル・エフェクトを選択する

Pre FXエフェクトの名前をクリックし、リストから目的のアイテムを選択します。



### Red Comp

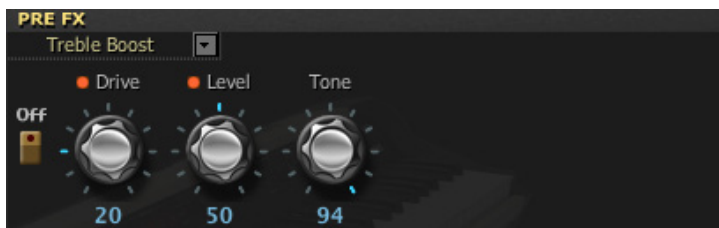
ダイナミクスの整った、クリーンなコード演奏をしたいときにコンプレッサー・ペダルをします。クリーンなサウンドを再現する、人気を博した赤いコンプレッサー・ペダルをモデルにしています。ポップやファンク・ミュージックに最適です。



パラメーター	値	説明
Sens	0~99	コンプレッサーの感度を調節します (例: スムーズにするエフェクトがかかるとき)。コンプレッション量はこのコントロールを上げるとより増加します。
Level	0~100	出力レベルを調節します。通常、これはコンプレッションにより失ったゲインを埋め合わせるときに使用します。
Attack	0~99	コンプレッサーをかけるのに必要な速度を調節します。速度が上がるとノートの始まりがカットされることがあります。

## Treble Boost

このエフェクトは、「ギター・オーケストラ」効果を作り出すために開発された有名なブースト/オーバードライブ・エフェクトがモデルになっています。VOX VBM-1 は、濁りのないブーストを信号に加えたり、オルガンの音にオーバードライブを効かせて豊かな倍音を響かせたりします。3つのコントロールによって広いレンジでの設定が可能で、さまざまなタイプのオーバードライブ・サウンドを作り出すことができます。



パラメーター	値	説明
Drive	0～99	ディストーション(ブースト)の量を調節します。値を最も小さくした場合、非常にクリーンで、強く鳴らしてもひずみが生じにくいサウンドになる。
Level	0～100	出力レベルを調節します。
Tone	0～99	トーンを調節します。

## U-Vibe

Uni-Vibeをモデルにした、コーラス/ビブラートで最も有名なペダル・ユニットです。このエフェクトは回転スピーカーをシミュレートし、とても魅力的で情感のあるトーンを作り出します。



パラメーター	値	説明
Speed	1.00～10.00Hz	U-Vibeのビブラートの速さを調節します。
Depth	0～100	U-Vibeのビブラートの深さを調節します。
Mix	0～100	ダイレクト・サウンドとのビブラートのミックス量を調節します。「0」はエフェクトなし、「50」はコーラス、「100」はビブラート。

## Vibrato

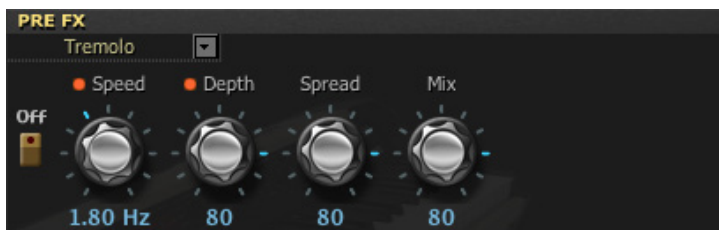
このエフェクトはビンテージ・オルガンのコーラスとビブラート回路 (ビブラート・スキャナーとも呼ばれる) をシミュレートします。Presetモードでは、**Type**ノブでビブラートまたはコーラスのタイプを選択し、その他のノブは無効になります。Customモードでは、**Depth**と**Speed**ノブでビブラートまたはコーラスのサウンドを調整し、オリジナルよりも幅広い設定が可能です。また、**Mix**ノブでエフェクト・サウンドのみを出力すると、ビブラート (ピッチ・モジュレーション) を作り出すことができます。



パラメーター	値	説明
Mode	Preset, Custom	プリセットまたはカスタム設定を選択します。
Type	V1, C1, V2, C2, V3, C3	Presetモードでのエフェクト・タイプを選択します。V1/V2/V3はビブラートのバリエーション、C1/C2/C3はコーラスのバリエーション (オリジナルの Vibrato Scanner をモデリング)。
Vib/Ch Mix	0~100	Customモードでは、ビブラートとコーラスのミックス・レベルを設定します。
Depth	0~100	Customモードでは、モジュレーションの深さを調節します。
Speed	0.02~20.00Hz	Customモードでは、モジュレーションのスピードを調節します。
Mix	0~100	Customモードでは、ダイレクト信号とエフェクト間のミックスを調節します。

## Tremolo

これはTwinアンプ・モデルに搭載された、ポピュラーなトレモロ回路のモデリングです。**Spread**ノブの設定では、左右に揺れるパン効果を作り出すことができます。左右に広がるパン効果を生み出します。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10~10.00Hz	トレモロのスピードを調節します。
Depth	0~100	トレモロの深さを調節します。
Spread	0~100	左右の広がりを調節します。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックスを調節します。

## VOX Wah

伝説のVOXワウ・ペダルV847とV848 Clyde McCoyの2つのモデリングです。独特のかすれたトーンにより、多くのプロ・ミュージシャンの人気の的となったペダルです。使いこなすと、赤ちゃんの泣き声から、怒った男のうなり声まで自在なサウンドを作ることができます。



パラメーター	値	説明
Close	0～99	ワウ・ペダルが閉じているときのトーンを調節します。
Open	0～99	ワウ・ペダルが開いているときのトーンを調節します。
Manual	0～99	Pedalモードでのワウの開き具合(位置)を調節します。
Model	V847, V848	ワウ・タイプをV847またはV848 Clyde McCoyから選択します。
Auto Sens	0～100	Autoモードでのワウの感度を設定します。

**注意:** Manualワウのコントロールは、フロント・パネル上でAuto/PedalボタンがPedalモードに入っているときのみ作動します。

**注意:** このエフェクトを選択した場合は、PEDAL 2端子に接続したエクスペッション・ペダルでワウをコントロールすることができます。

**音色を作り出すためのヒント:** 有名なアーティストを含む多くのミュージシャンは、ワウ・ペダルの「スイート・スポット」を見つけ、ペダルの位置をそこでキープするという方法を使っています。これは「**スタック・ワウ**」とも呼ばれ、うまく使えば、どんなミックスするにも埋もれないユニークなサウンドを作り出すことができます。

## アンプ・セクション

素晴らしいサウンドを誇る数々のアンプがある中で、モデルとなるアンプを選択する作業は簡単なものではありませんでした。多くの時間を費やして実機収集、検討、および試聴を繰り返し、最良のアンプ/キャビネットのリストが生まれました。こうして選んだアンプは、どれも最高のクオリティを誇るものです。また、音色もできる限りさまざまなタイプを用意しました。

プリアンプとパワー・アンプの動作特性、トーン・コントロールの反応、回路内の配置は、ここで選択したアンプ・タイプによって変わり、オリジナル・アンプのゲインとトーンの特長が表れます。非常に重要な役割を果たすパワー・アンプの動作（A 級またはAB 級）、そしてネガティブ・フィードバック回路特性（あり、またはなし）も厳密にシミュレートされます。

### GainとVolumeノブについて

アンプの前に、**Sound**ページのプログラムの**Volume**コントロールで、各プログラムのバランスを調節し、プリアンプへ送る信号量を調節します。これらのコントロールでプリアンプのドライブ量を調節します。

アンプ・モデルのボリューム（またはゲイン）を調節する2つのノブが**Pre Volume**と**Amp Volume**です。コントロールには固有の機能があり、このノブの設定次第で、アンプ・モデルのサウンドが驚くほど変化します。オリジナルのアンプと同じように、プリ・アンプとパワー・アンプ相互間の作用が関係づけられています。

**Pre Volume**コントロールで設定を低くすると、プリアンプのディストーションが増加するようになり、設定を高くすると、Valve Reactorの独特なディストーションと暖かみが加わります。**Amp Volume**コントロールは、その代わりにアンプの出力を調節します。キャビネット・セクションの**Power Att**パラメーターは、アンプの出力とスピーカー・キャビネットの入力の間に配置され、コーンで生じる不要な歪みを防ぎます。

**FX**ページの Total FXの**Gain**や**Out Ceiling**コントロールは、音のレベルを調節し、楽器のすべての音の相互間のバランスを整えることができます。

**注意:** Pre Volumeのレベルを高く設定すると、強く歪むので、このノブには注意が必要です。



## 真空管の話

イギリスでは真空管のことを「バルブ」、アメリカでは「チューブ」と呼びます。同じ言語を使っている、イギリスとアメリカはあくまでも、2つの別の国ということです。名称はどうであれ、採用したアンプ・モデルの中心には、いずれもあの真空のガラス管が息づいています。今回モデリングした数々のアンプは、この2つの国のどちらかで生まれたものです。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプでは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプでは「チューブ」を使っています。

**質問：** ECC83プリアンプ・バルブと12AX7プリアンプ・チューブの違いは何ですか？

**回答：** 違いはありません！ それらは2つとも全く同じものです。アンプの世界で最も人気の高いプリアンプ真空管です。ECC83はイギリス（英国）での名称、12AX7（別名7025）はアメリカ（米国）での名前です。

## パワー・アンプの精度

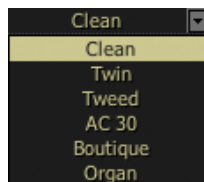
優れた真空管アンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に与える**最も重要な要素**です。パワー・アンプの動作（A、AB 級）、真空管の種類（EL84、EL34、6L6、6V6）、負帰還回路の特性、パワー段のスピーカーとの応答性（ダンピング特性）などの要素が、音色に重要な役割を果たしています。

こうした要素を実現するために、SV-2には米国特許取得済みの**Valve Reactor**技術が採用されています。Valve Reactor技術は、特有の真空管サウンドを驚異的な精度でモデリングしたものです。実際の真空管アンプと同じ回路構成を用いて真空管パワー・アンプをエミュレートし、真空管アンプに固有の重要な特性を忠実に、そして正確に再現します。たとえば、アンプ・モデルとしてAC30を選択すると、Valve Reactor パワー段は、A 級、EL84、無帰還という設定に切り替わります。

次に、各アンプ・モデルについて説明しましょう。

## アンプ・モデルを選択する

アンプ・モデルの名前をクリックし、リストから目的のアイテムを選択します。



## Clean

Cleanは、その名のとおりクリーンなサウンドで、タイトなはじけるような響きを持ち、低音は深く引き締まった音です。音を強く出すと、低音部が歪む傾向があります。オリジナル・アンプには、Presenceコントロールではなく、Brightスイッチがついてます。SV-2のPresenceコントロールは、このスイッチの「オン」と「オフ」も含めてエミュレートしています。



パラメーター	値	説明
Pre Vol	0~100	ディストーションの度合いは、入力信号のレベルとPre Volの設定で決まります。Pre Volの設定を高くすると、ボリューム・レベル全体が上がります。ボリューム・レベルを調整するには、Amp Vol パラメーターを使います。
Amp Vol	0~100	
Bass	0~100	低域の周波数を調節します。
Middle	0~100	中域の周波数を調節します。
Treble	0~100	高域の周波数を調節します。
Presence	0~100	標準のトレブル・コントロール・レンジよりも上の帯域をブーストし、超高域を付け加えます。

## Twin

1960年代初頭にカリフォルニア南部で作られたブラック・フェイスのギター・アンプです。高ワット、2 x 12インチ・スピーカーにより、きらびやかな音色を実現しています。このアンプの中域出力とパワフルなサウンドは、ロック、ブルース、ジャズ、カントリー・クラブで引っ張りだことなりました。

**オリジナル・アンプのチューブ構成：**4 x 12AX7、2 x 12AT7 (プリアンプ内)、solid state rectifier、4 x 6L6 (パワーアンプ内)

パラメーターの説明については、"Clean"を参照してください。

## Tweed

すべてがこのアンプから始まりました。40W、2x12インチ・スピーカーで作られる、滑らかで、ファットなディストーション、倍音が豊かなクリーン・トーンは、1960年代に活躍した偉大なバンドに愛されました。「クラシック・トーン」といえば、このアンプの音色のことと言ってもよいでしょう。そのニックネーム (Tweed) は、ブラウンとゴールドのグリル・クロスが貼られ、ラッカー仕上げのツイードを使ったスピーカーから来たもので、その洗練された外見でも有名です。

**オリジナル・アンプのチューブ構成:** 4 x 12AX7 (プリアンプ内)、2 x 5U4 (整流器内)、2 x 6X4 (パワーアンプ内)

パラメーターの説明については、"Clean"を参照してください。

## AC30

このアンプの基となったのは、1959年製、30W、2x12インチ・スピーカーを搭載した AC30のノーマル・チャンネルのサウンドです。AC30のノーマル・チャンネルには、最低限のノブしかありません。

**注意:** 「Presence」パラメーターは、AC30モデルでは「Tone Cut」になります。超高域をカットすることについて、逆のコントロールとなります。

**オリジナル・アンプのチューブ構成:** 4 x ECC83、1 x ECC82 (プリアンプ内)、1 x GZ34 (整流器内)、4 x EL84 (パワーアンプ内)

パラメーターの説明については、"Clean"を参照してください。

## Boutique

このモデルでは、有名なカリフォルニアのメーカーの、完全受注生産でハンド・メイドされる高級プリアンプのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音に豊かな倍音のオーバードライブ、鮮やかなクリーン・トーン、アコースティックなアタック、伸びやかなサステインが加わり、演奏する楽しみを味わわせてくれます。

**オリジナル・アンプのチューブ構成:** 2 x 12AX7 (プリアンプ内)、1 x 12AX7 (整流器内)、4 x EL34 (または6L6) (パワーアンプ内)

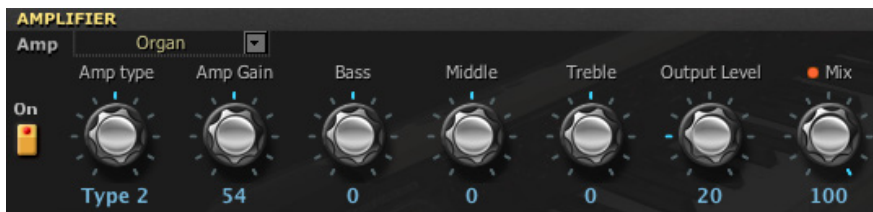
パラメーターの説明については、"Clean"を参照してください。

## Organ

これは、クラシックなトーンホイール・オルガンのアンプを忠実に再現したモデルです。3バンド・イコライザーを使えば、非常に多彩なディストーションを作り出すことができます。このアンプ・モデルは、オルガン・サウンドに特に適しています。

2つのアンプ・モデルのうちどちらか1つを選択するか、オルガンのプリアンプから直接ライン出力を選択することができます。**Type 1**は、オルガンに適した標準的なパワード・アンプで暖かみのあるファットなトーンを再現します。**Type 2**はタイプ1よりも高周波で、トーンのカラールが少なくなります。**Pre Ampl**は、オルガンからの直接のライン出力のサウンドです。アンプ・ゲインはありませんが、他のすべてのコントロールは有効です。

**ヒント:** Organを選択する場合、キャビネットとしてBypassを選択することをお勧めします。これにより、オルガン自体のキャビネットとギター・キャビネットを同時に持たせることを防ぐことになります。とはいえ、どのような組み合わせでも自由に試してみてください。



パラメーター	値	説明
Amp Type	Type 1, Type 2, Pre Amp	アンプ・モデルのタイプです。Pre AmplはAmp Gainをバイパスします。
Amp Gain	0~100	Amp TypeがType 1またはType 2に設定されている場合、これでゲインを調節します。Amp TypeがPre Amplに設定されている場合、これは適用されません。 エクスプレッション・ペダルがPEDAL 2端子に接続されている場合、ペダルでオーバードライブとディストーションの量をコントロールします。Amp Gainの値が高いと、歪みが大きくなります。Amp Gain=0では、アンプはクリーンなままです。
Bass	-10~10	低域の周波数を調節します。
Middle	-10~10	中域の周波数を調節します。
Treble	-10~10	高域の周波数を調節します。
Output Level	0~100	アンプの出力レベルです。
Mix		ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。アンプのサウンドをミックスで下げることで、サウンドに丸みが出ます。

## Cabinetセクション

ここでは、キャビネット・モデルについて説明します。SV-2フロント・パネルからアンプ・モデルを選択すると、対応するキャビネット・モデルが自動的に表示されます。このセクションでのみ、アンプ/キャビネット・コンボをエディットすることができます。



### キャビネットとスピーカーの精度

アンプのモデリングがいくら精密でも、スピーカー・キャビネットのモデルも同じように正確に再現されていなければ意味はありません。ご存知のように、実際の真空管アンプの出力は、それが駆動するスピーカーのさまざまなインピーダンス曲線に深く関係しています。暖かみのあるサウンド、パンチの効いたサウンド、あるいは心地よいサウンドを出せるか出せないかは、このことに大きく依存します。

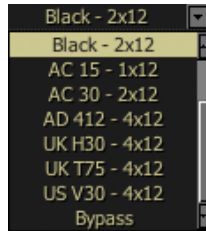
つまり、スピーカー・キャビネットのモデリングとは、単に周波数特性を考えるだけでなく、トランジェント・レスポンス（音程変化に対するスピーカーの追従性）、アンプ出力に対するスピーカーのインピーダンス曲線などの組み合わせを設計することなのです。

さらに、キャビネットのモデリングでは、キャビネットの実際のサイズ、特有の鳴り（材料となる木材の種類や厚さに影響されます）、形状がオープン・タイプ、セミオープン・タイプ、クローズドバックのどれか、などを十分に考慮しなければなりません。

特別な回路と独自のモデリング技術により、これらすべての要素がSV-2の内蔵キャビネット・モデルに反映されています。

## キャビネット・モデルを選択する

キャビネット・モデルの名前をクリックし、リストから目的のアイテムを選択します。



## Tweed – 1x12

このスピーカー・キャビネットは、Tweed Amp と組み合わせられるものです。名前が示すとおり、12インチのスピーカー 1 基を搭載しており、これは米国製アルニコ・マグネットを使用しています。



パラメーター	値	説明
Power Att	0~100	パワー・アッテネーターで、パワー・アンプのレベルを設定します。値を変更すると、サウンドのキャラクターも変わります。
NR Sens	0~100	ノイズ・リダクション・レベルを調節します。

## Tweed – 4x10

米国製アルニコ・マグネット・スピーカーを内蔵するこのキャビネットは、Twinアンプと組み合わせます。オープンバックのこのキャビネットは10インチ、8Ωスピーカーを4基使用し、パラレル接続で2Ωのインピーダンスになります。元々はベース・ギター用に設計されたこのスピーカーですが、さまざまなスタイルで活躍します。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## Black – 2x10

このキャビネットに合わせたアンプのモデリングは行っていませんが、1960年代中頃にカリフォルニア州フラートンで作られた、米国製セラミック・マグネット搭載のオープンバック、2x10インチ35Wコンボの音色が最高です。ブルース、ジャズ、カントリーに最適です。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## Black – 2x12

上記と同様に、このキャビネットに合わせたアンプのモデリングは行っていませんが、最も気に入ったものを含めました。1960年代中頃に米国で製作された、12インチのセラミック・マグネット・スピーカーが2基搭載されています。8Ωのユニットですが、パラレルにワイヤリングされて総インピーダンスは4Ωになっています。これらのスピーカーは多くのさまざまな音楽スタイルのレコーディングに使用されていますが、特にカントリーやブルースをベースにしたロック・ミュージックで圧倒的な支持を得ています。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## AC15 – 1x12

英国イプスウィッチのセッション製、名高い"VOXブルー・アルニコ・スピーカー"を使用した12インチ1発のオープン・バック・コンボで、最近リイシューされたAC15TBのスピーカー・キャビネットのモデリングです。このスピーカーは8Ω、15ワットで、1x12オープンバックのキャビネットには非常に充実したものです。もちろん有名なVOXの"チャイム"のような高域を生むのに貢献しています。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## AC30 – 2x12

AC15の2倍のパワー、2発の12インチVOXブルー・アルニコ・スピーカーを16Ω用にシリアルにワイヤリングしたこのスピーカー・キャビネットは、さらにVOXトーンの素晴らしさが加わります。今回はいくつかの1960年代のオリジナル・サウンドをモデリングしました。スピーカーは年を重ねるにつれて音色が変化するため、年代の違う同じスピーカーで、違ったサウンドを再現することができます。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## AD412 – 4x12

このキャビネットは最近のVOX製品の1つです。ネオジウム・マグネットを採用したカスタム・デザインのセレクション製スピーカーを使用し、特殊な音響設計技術を採用した4x12キャビネットです。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## UK H30 – 4x12

1960年代後期のスピーカーを搭載したこのヘビー・デューティなキャビネットは、UK T75 4x12と同様、英国製です。過去、これらのキャビネットは数えられない程のクラシック・ロックのレコーディングに使われてきました。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## UK T75 – 4x12

この4x12インチ・モデルは、現行の75ワット英国製スピーカーを搭載した英国製の黒い箱として有名です。よく積み上げられているのを見ますが、恐らく今までで最も売られたギター・キャビネットで、ほとんどのスタイルのロックに適します。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## US V30 – 4x12

このキャビネット“黒い野獣”はカリフォルニア生まれですが、英国製の“Vintage”と名づけられたスピーカーを使用しています。深い低域と、輪郭のある高域で知られています。

パラメーターの説明については、"Tweed – 1x12"を参照してください。

## Bypass

キャビネットをバイパスすると、キャビネットのシミュレーションは消えます。これはOrganアンプにを使用するときを選択します。Organアンプには、Rotaryスピーカー・モデル (MODULATIONセクションにあります) のキャビネットを使用することをお勧めします。



## アンプとキャビネットの組み合わせ例

基本的に、SV-2ではアンプ・モデルとキャビネット・モデルを自由に組み合わせ、多様なサウンドを作ることができます。手始めとなる代表的な組み合わせをここで紹介します。

アンプ・モデル	事実上正確なキャビネット・モデル
Clean	Black – 2x12
Twin	Tweed – 4x10
Tweed	Tweed – 1x12
VOX AC30	AC30 – 2x12
Boutique	US V30 – 4x12 or UK T75 – 4x12
Organ	Bypass (Rotaryスピーカーのキャビネットを使用)

SV-2は柔軟性に富んでおり、アンプとキャビネットの組み合わせやセッティングなどを、スイッチを回すだけで簡単に切り替えることができ、スピーカーを破損することはありません。

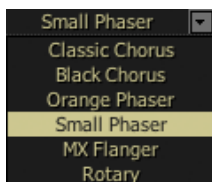
アンプとキャビネットのすべてのモデルをスイッチを回すだけで組み合わせられるため、スピーカーを損傷させるリスクはありません。自由な発想で、気に入ったサウンドを手に入れてください。

## モジュレーション・エフェクト・セクション

このセクションでは、キャビネットの後にモジュレーション・エフェクトを追加します。6種類から1つを選びます。

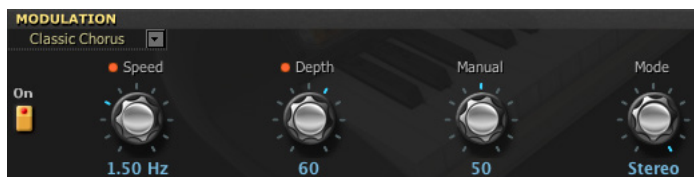
### モジュレーション・エフェクトを選択する

モジュレーション・エフェクトの名前をクリックし、リストから目的のアイテムを選択します。



### Classic Chorus

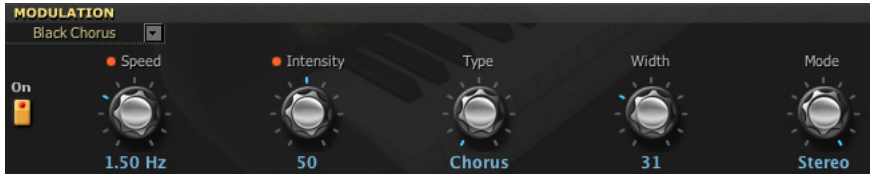
これは、ギター・アンプに内蔵されていることで有名なコーラス・ユニットをモデリングしたのですが、ストップボックスとしても使用可能です。**Mono**モードではビブラート、**Stereo**モードではコーラスになります。SpeedノブとDepthノブを使用すると、オリジナル・ユニットよりも幅広いサウンド作りが可能です。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10~10.00Hz	モジュレーション速度を調節します。
Depth	0~100	モジュレーションの深さを調節します。
Manual	0~99	スイープの中心周波数を調節します。Depthが100のときは、Manualは機能しません。
Mode	Mono, Stereo	出力モードを選択します。Stereoモードのときは、エフェクト・サウンドが右チャンネル、ドライ・サウンドが左チャンネルから出力します。

## Black Chorus

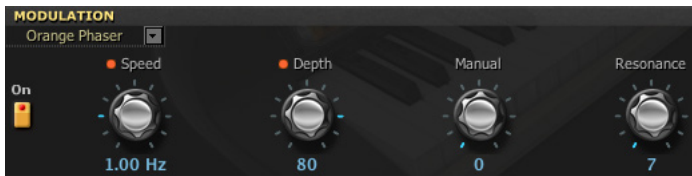
このステレオ・コーラス+ピッチ・モジュレーター & フランジャーは、本来はギター用エフェクトですが、多くのキーボード・プレイヤーが効果を認めて使用しています。エレクトリック・ピアノで、特殊な「タッチ」を実現できます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10～10.00Hz	モジュレーションのスピードを調節します。
Intensity	0～99	モジュレーションの強さを調節します。
Type	Chorus, Pitch Mod, Flanger	エフェクトのタイプを選択します。
Width	0～100	幅を調節します。Monoモードのときは機能しません。
Mode	Mono, Stereo	出力モードを選択します。

## Orange Phaser

このデバイスは、さまざまなレコーディングに利用されてきました。コード・パッセージに躍動感を与え、サウンドを広げて豊かにするとき役に立ちます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10～10.00Hz	モジュレーションのスピードを調節します。
Depth	0～100	モジュレーションの深さを調節します。
Manual	0～99	スイープの中心周波数を調節します。Depthが100のときはManualは機能しません。
Resonance	0～100	フェイザーのレゾナンスを調整します。周波数レスポンスのピークの高さと鋭さを変更します。

## Small Phaser

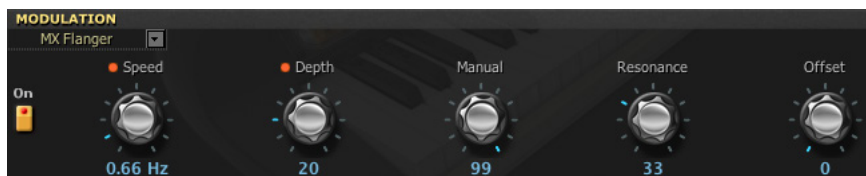
70年代のニューヨークで生まれたこのクラシック・フェイザーは、暖かく豊かなトーンを持ち、透明感と潤いのある響きを奏でます。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10～10.00Hz	モジュレーションのスピードを調節します。
Color	0, 1	フェイザーのサウンドを2段階から選択します。1ではより深いフェイズ・シフトになります。

## MX Flanger

クラシックなアナログ・フランジャーをモデリングしました。クラビ系の楽器やエレクトリック・ピアノのコード・プレイに大きな力を発揮します。



パラメーター	値	説明
Speed	0.10～10.00Hz	モジュレーションのスピードを調節します。
Depth	0～100	モジュレーションの深さを調節します。
Manual	0～99	スイープの中心周波数を調節します。Depthが「100」のときは、Manualは機能しません。
Resonance	0～100	レゾナンスの量を調節します。
Offset	0～100	LFOの開始位置を調節します。

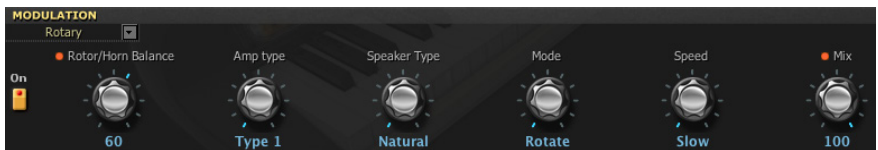
## Rotary

ステレオ仕様のロータリー・スピーカーをモデリングしました。スピードをSlowまたはFastにすると、実際のロータリー・スピーカーのように、一定時間後に設定したスピードに到達します。これは、スピーカーの回転を制御するモーターが速度の切り替えに数秒かかるのを再現しているからです。

選択したスピーカーのタイプはトーン全体に非常に大きな効果を与えます。その効果は速い回転速度に設定した場合に顕著に現れます。**Natural**は、クラシックなビンテージ・ロータリー・スピーカーの新たな分析に基づいています。**Resonant**は、一般的なロータリー・スピーカー・エフェクト・ペダルと同様に、Naturalより中域にひっかかりがあります。**Bright**はNaturalを基にしていますが、ブライトなサウンドです。**Original**はオリジナルのコルグCX-3スピーカー・シミュレーターと同じです。

**+Direct**バージョンでは、わずかなダイレクト信号のミックスを加えるため、より顕著な高域と低域の広がりが見られます。

**ヒント:** Speaker Typeによっては、周波数レスポンスで鋭いレゾナンスを持つものもあり、特定のサウンドとノートでボリュームがより高くなる場合があります。ボリュームがすでに高く設定されていると、出力でクリッピングが生じる原因になります。クリップが生じたときは、アンプ・レベルやプログラムのボリューム・レベルを下げてください。



パラメーター	値	説明
Rotor/Horn Balance	Rotor, 1~99, Horn	低域ローターと高域ホーンとの間の、レベルのバランスを調節します。
Amp Type	Type 1, Type 2	アンプ・モデルのタイプです。これは通常、Organ・アンプと同じですが、ここで別のアンプ・タイプを選択することもできます。
Speaker Type	Natural, Natural+Direct, Resonance, Resonance+Direct, Bright, Bright+Direct, Original	スピーカー・シミュレーターに使用するモデルを選択します。+Directはダイレクト信号をわずかに加えます。
Mode	Rotate, Stop	これにより、ロータリー・スピーカーをスタートまたはストップします。ストップしているときでも、スピーカーは音色に影響します。
Speed	Slow, Fast	スローとファースト間でスピーカーの回転速度を切り替えます。
Mix	0~100	ダイレクト信号とロータリー・スピーカーのミックス量を調節します。

**注意:** このエフェクトを選択した場合は、PEDAL 1端子に接続したフット・スイッチでロータリーのスロー / ファースト・スイッチをコントロールできます。

## アンビエント・エフェクト・セクション

ここでモジュレーションの後に挿入されるリバーブ、エコー、ディレイ・エフェクトを調整します。

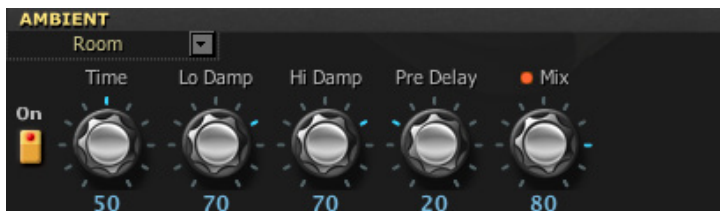
### アンビエント・エフェクトを選ぶ

アンビエント・エフェクトの名前をクリックし、リストから目的のアイテムを選択します。



### Room

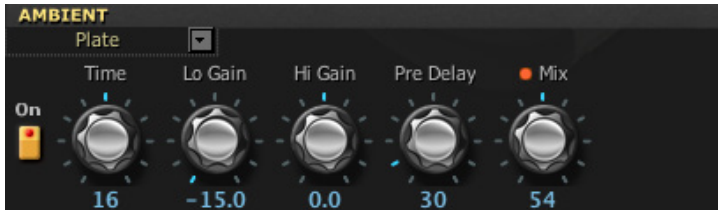
初期反射音を多く含む、一般的な部屋の残響をモデリングしました。



パラメーター	値	説明
Time	0~99	リバーブ・タイムを設定します。
Lo Damp	0~100	低域の減衰を調節します。
Hi Damp	0~100	高域の減衰を調節します。
Pre Delay	0~70	反響が始まる前の初期ディレイを設定します。この設定を調節すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができます。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。

## Plate

金属板を振動させるタイプのリバーブ・ユニットをモデリングしました。リバーブ・タイムは短めです。立ち上がりの早い残響で、パーカッシブなプレイに適しています。



パラメーター	値	説明
Time	1~30	リバーブ・タイムを設定します。
Lo Gain	-15.0 ~ 15.0	低域を調節します。
Hi Gain	-15.0 ~ 15.0	高域を調節します。
Pre Delay	0~200	反響が始まる前の初期ディレイを設定します。この設定を調節すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができます。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。

## Hall

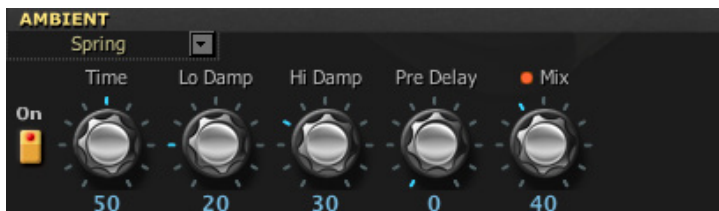
反射音を多く含む、コンサート・ホールの残響をモデリングしました。



パラメーター	値	説明
Time	1~100	リバーブ・タイムを設定します。
Size	5~100	スペースのサイズを設定します。
Damping	0~100	高周波ダンピング・フィルターのカットオフを設定します。Dampingが100の場合、高域は低域と同じレートで衰退します。0の場合、高域はすぐに衰退します。
Rolloff	0~100	エフェクトの出力のローパス・フィルターをコントロールします。6~8kHzあたりに設定することで暖かみのある、スムーズなサウンドになります。
Pre Delay	0~1360	反響が始まる前の初期ディレイを設定します。この設定を調節すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができます。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。

## Spring

一部のギターやビンテージ・オルガン・アンプに搭載されているスプリング・リバーブ・システムをモデリングしました。



パラメーター	値	説明
Time	0~99	リバーブ・タイムを設定します。
Lo Damp	0~100	低域の減衰を調節します。
Hi Damp	0~100	高域の減衰を調節します。
Pre Delay	0~70	反響が始まる前の初期ディレイを設定します。この設定を調節すると、オリジナルのサウンドの輪郭を際立たせることができます。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。



## Tape Echo

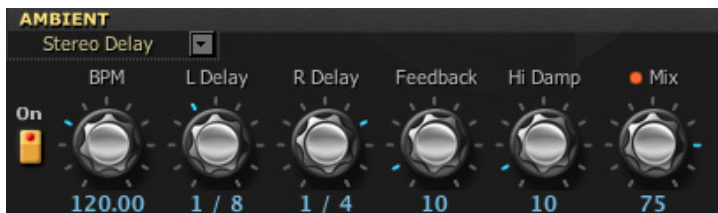
アナログ・テープ・エコーの名機をモデリングしました。オリジナルの実機では、「エコー」は再生ヘッドによって作られ、「ディレイ・タイム」はテープの回転速度を調節して設定されます。暖かさと陰影のあるエコーが生まれるため、多くのプロ・ミュージシャンが、この「ローファイ」ユニットを好んで使っています。



パラメーター	値	説明
Time	0~2700	ディレイ・タイムを設定します。
Feedback	0~100	フィードバックの量を調節します。
Tone	0~99	ディレイのトーンを調節します
Lo Damp	0~100	低域の減衰量を調節します。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。

## Stereo Delay

ディレイ・タイムをテンポに合わせて設定することのできる、ステレオ・ディレイです。



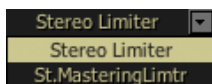
パラメーター	値	説明
BPM	40.00~300.00	ディレイ・タイムをBPM (ビート/分)で設定します。
L Delay	1/32~1/1	左チャンネルのディレイの音価を指定します。
R Delay	1/32~1/1	右チャンネルのディレイの音価を指定します。
Feedback	0~100	フィードバックの量を調節します。ディレイの反復数が増減します。
Hi Damp	0~100	高域の減衰量を調節します。
Mix	0~100	ダイレクト信号とエフェクトのミックス量を調節します。

## TOTAL FXセクション

キャビネット、モジュレーション、リバーブ/ディレイの後に挿入されるリミッターを調節します。トータル・エフェクトは、SV-2のフロント・パネルからは設定できません。トータル・エフェクトをエディットできるのはここだけです。

### Total FXエフェクトを選択する

Total FXの名前をクリックし、リストから目的のアイテムを選択します。



### Stereo Limiter

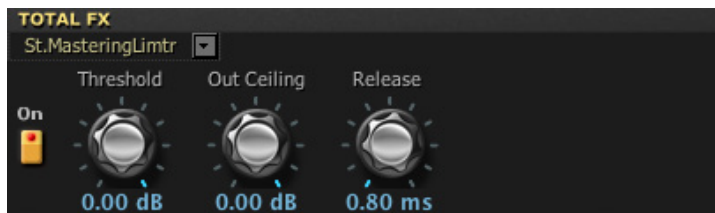
リミッターは出力信号のレベルを制限します。コンプレッサーに似ていますが、リミッターは、指定したレベルを超えた信号にのみコンプレッションをかけ、不要なピーク信号を低減します。



パラメーター	値	説明
Ratio	1.0:1~Inf:1	信号の圧縮比を設定します。信号レベルがTHRESHOLD値を超えたときのみ、コンプレッションが適用されます。
Threshold	-40~0dB	コンプレッサーを適用させるレベルを設定します。
Attack	1~100 [ms]	アタック・タイムを設定します。アタック・タイムを高く設定すると、コンプレッションがゆっくりとかけられるので、大きな音の場合もすぐには反応しない場合があります。
Release	1~100 [ms]	リリース・タイムを設定します。リリース・タイムを高く設定すると、コンプレッションがゆっくりとリリースします。
Gain	-Inf, -38~+24dB	出力ゲインを設定します。コンプレッションによってゲインが下がるのを補正するために使用します。

## Stereo Mastering Limiter

マスタリングに最適化された、ステレオ・リミッターです。



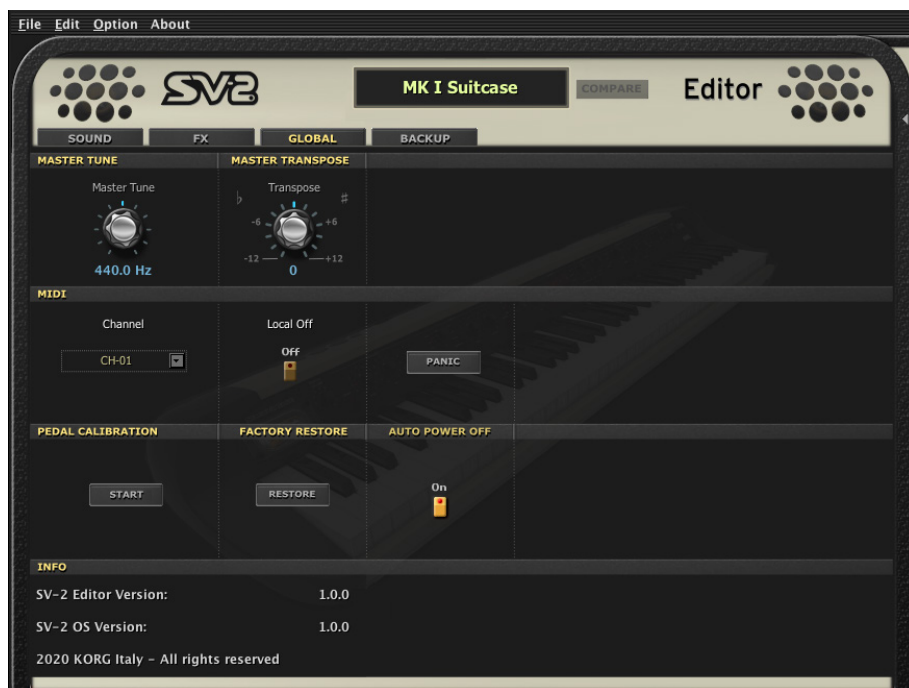
パラメーター	値	説明
Threshold	-30～0dB	コンプレッサーを適用させるレベルを設定します。
Out Ceiling	-30～0dB	出力ゲインを設定します。コンプレッションによってゲインが下がるのを補正するために使用します。
Release	0.50～1000.00 ms	リリース・タイムを設定します。

# Globalページ

Globalページでは、マスター・チューニング、マスター・トランスポーズ、ペダル・キャリブレーション、MIDIを送受信するチャンネル、ローカル・オフ機能のオン、オフなど、全体にかかわるパラメーターをエディットします。

このページではSV-2を工場出荷時の状態にリセットすることができます。

「Master Transpose」と「Local Off」は、本機の電源をオフにするとリセットされます。MIDIチャンネルとマスター・チューニングの値はエディットすると、グローバル設定としてSV-2に保存されます。



## マスター・チューンとトランスポーズ

基準ピッチ (Master Tune) を調整し、半音単位でトランスポーズします。

### Master Tune

SV-2のピッチ (音高) はデフォルトでA=440Hzに設定されています。一緒に演奏する別の楽器に合わせるなど、本機のピッチを微調整することができます。

**Master Tune**ノブで調整して、他の楽器のピッチに合わせます。マスター・チューニングは自動的にグローバル設定に保存されます。



デフォルト設定のA=440Hzにリセットするときは、このノブをダブルクリックします。

パラメーター	値	説明
Master Tune	415.0~465.0	ピッチをヘルツ単位で微調整します。

### Master Transpose

半音単位で本機のキー (調) を変えて、難しいキーを弾きやすいキー変えることができます。**Transpose**ノブを使って、SV-2を移調します。本機の電源を切ると、この設定はリセットされます。

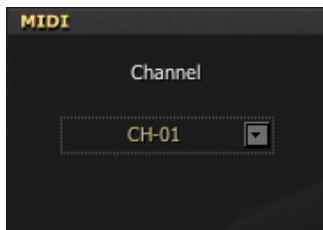


パラメーター	値	説明
Master Transpose	-12~12	ピッチを1半音単位で設定します。12半音が1オクターブです。

## MIDI

### MIDI Channel

**Channel**メニューで、SV-2がデータをやり取りするMIDIチャンネルを設定します。選択したチャンネルは自動的にグローバル設定に保存されます。



### Local Off

#### ローカル・オン Local Off=Off

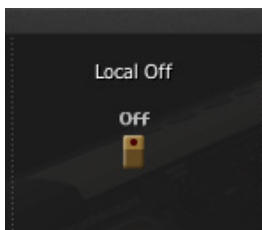
SV-2の鍵盤を弾くと内部音源が鳴り、MIDIデータをコンピューターに送信します。これは通常の状態です。

#### ローカル・オフ Local Off=On

SV-2の鍵盤と内部音源の接続が切られ、鍵盤を弾いても内部音源は鳴りません。このとき、MIDIデータはコンピューターに送信されます。

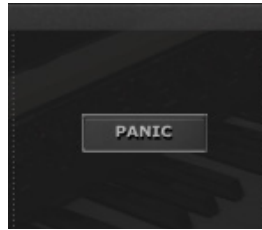
38ページの「ローカル・オフ機能」を参照してください。

**注意:** 本機の電源をオフにすると、この設定はリセットされます。



## PANIC

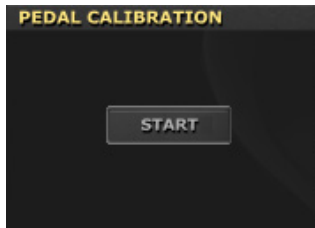
MIDI通信でMIDIノートの発音が止まらなくなった場合は、音が止まるまで**Panic**ボタンを長押ししてください。



**ヒント:** パニック機能は、SV-2のフロント・パネルからいつでも操作することができます。EQUALIZERセクションのOn/Offボタンを、出力音が止まるまで、長押ししてください。

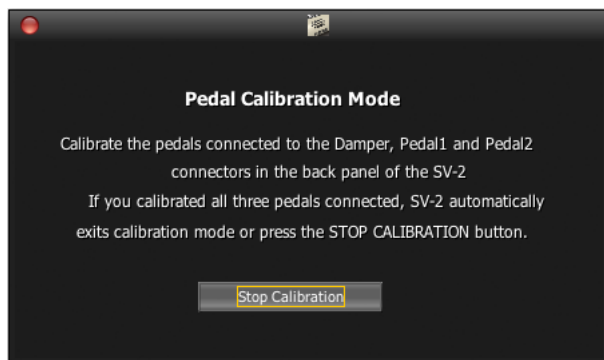
## ペダル・キャリブレーション

リア・パネルの**DAMPER**、**PEDAL 1**と**PEDAL 2**端子に接続した、各ペダルの感度を調整します。ペダルのキャリブレーションを実行することで、SV-2にペダルの極性やペダルの可変範囲を認識させることができます。



- 1 キャリブレーションを行うすべてのペダルをSV-2に接続します。**DAMPER**端子には付属のコルグDS-2Hダンパー・ペダル (または別売りのDS-1Hやフット・スイッチ) を接続してください。**PEDAL 1**端子にはフット・スイッチを、そして**PEDAL 2**端子にはフット・スイッチまたはボリューム/エクスプレッション・ペダルを接続します。
- 2 ボリューム/エクスプレッション・タイプのペダルの位置を最小値にします。
- 3 **Global**ページへ進み、**Pedal Calibration**セクションの**Start**ボタンをクリックします。
- 4 「Are you sure」メッセージが表示されたら、**Yes**ボタンをクリックします (または**No**をクリックしてキャリブレーションをキャンセルします)。

**Pedal Calibration Mode**ダイアログが表示され、SV-2はキャリブレーション・モードに入ります。



- 5 **PEDAL 1**の(フット・スイッチ)の調整を開始します。ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。
 

**PEDAL 1**端子に接続したペダルの調整が終了すると、**FAVORITES 1**ボタンが点灯します。
- 6 次に**PEDAL 2**を調整します。使用するフット・スイッチやボリューム/エクスプレッション・ペダルによって、手順は異なります。
  - フット・スイッチを接続した場合は、ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。
  - ボリューム/エクスプレッション・ペダルを接続した場合は、ペダルを最大位置(奥に踏み込む)にします。

**PEDAL 2**端子に接続したペダルの調整が終了すると、**FAVORITES 2**ボタンが点灯します。
- 7 最後に**DAMPER**ペダルを調整します。ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。
 

**DAMPER**端子に接続したペダルの調整が終了すると、**FAVORITES 3**ボタンが点灯します。
- 8 キャリブレーションを終了します。
  - 接続した3つのペダルの調整が終わると、SV-2は自動的にキャリブレーション・モードを終了します。
  - 1つまたは2つのペダルを調節した場合は、**Pedal Calibration Mode**ダイアログ内の**Stop Calibration**ボタンを押して、キャリブレーション・モードを終了してください。



## 工場出荷時の設定に戻す

SV-2は、工場出荷時の状態（フェイバリット・サウンドやグローバル設定を含む）に戻すことができます。

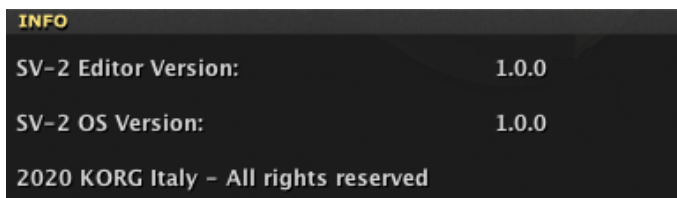


- 1 Globalページで、**Factory Restore**セクションの**Restore**ボタンをクリックします。
- 2 「Are you sure?」メッセージが表示されたら、**Yes**ボタンをクリックします（または**No**をクリックして設定を元に戻す手順をキャンセルします）。

これですべての設定が工場出荷時の設定に戻ります。

## INFO

INFOでは、SV-2 EditorとSV-2オペレーティング・システムのリリース・バージョンを表示します。



# Backupページ

BACKUPページでは、データのやり取りやアーカイブのために、バックアップ・セットの作成とエディットを行います。



## バックアップ・ツール

バックアップ・セットの画面上部にはツール・バーがあります。

これらのツールは、メニュー・コマンドとほぼ同じですが、より素早くアクセスすることができます。これらのツールを使用して、バックアップ・セットのデータやバックアップ・セット自体を管理します。



## New



新しい空のバックアップ・セットを作成します。複数のセットを同時に開き、別々のタブに各セットを表示します。

## Open



ディスクから既存のバックアップ・セットを開きます。すでに1つのセットがタブで開かれている場合は、新しいタブを開きます。

## Close



選択しているバックアップ・セットを閉じます。変更内容を保存していない場合、保存するか削除するかを問うメッセージが表示されます。名前横の小さなボックスをクリックしてタブを閉じることもできます。

## Save



選択しているタブを保存します。初めて保存する場合、保存場所と名前を指定するようメッセージが表示されます。

## Save as



選択しているタブの保存場所を指定し、名前をつけて保存します。

## Transmit



選択しているバックアップ・セットをSV-2へ転送します。

**警告:** バックアップ・セットを転送すると、SV-2のメモリーの内容がすべて書き替わり、元にあったデータは削除されます。大切なデータは、必ずバックアップしてください。

## Cut



選択したアイテムをバックアップ・セットから削除し、クリップボード・メモリーにコピーします。

## Copy



選択したアイテムをバックアップ・セットから削除せずに、クリップボード・メモリーへコピーします。

## Paste



クリップボード・メモリーからカットまたはコピーしたアイテムを、バックアップ・セットの選択した位置にペーストします。

## Delete



選択したアイテムをバックアップ・セットから削除します。

## Preview



このアイコンをクリックするとPreviewモードに入り、その音を聴くことができます。この操作では、選択したサウンドがSV-2に一時的に転送されるだけで、SV-2のメモリーからデータが削除されるわけではありません。

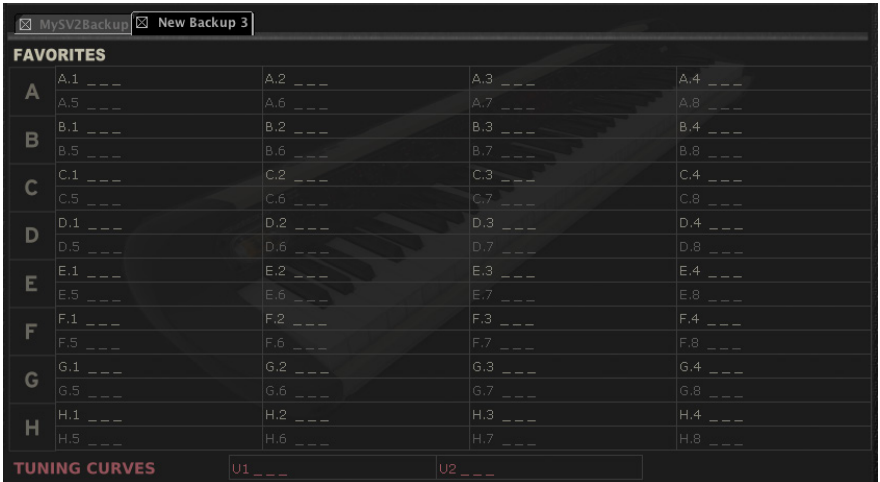
サウンドが気に入った場合は、**WRITE FAVORITE**ボタンをクリックして恒久的に保存することができます。

**Preview**モードを終了するときは、**サイド・パネル**から何かサウンドを選択します。

## バックアップ・セットの作成とエディット

以下の手順で新しいバックアップ・セットを作成します。

- 1 Backupページへ進みます。
- 2 「New」アイコンをクリックして、新しい空のフェイバリット・セットを作成します。グリッドが表示されます。そこには8つのバンク(A~H)のそれぞれを保存する、8つのフェイバリットの保存場所(A~H)が表示されています。2つのユーザー・チューニング・カーブの場所も表示されます。



**ヒント:** 複数のセットを同時に開いたまま表示させることができます。それぞれのタブにセットが表示されます。

- 3 サイド・パネルからファクトリー・サウンドまたはフェイバリット・サウンドを選び、バックアップ・セット内の空の場所にドラッグします。
- 4 サイド・パネルからユーザー・チューニング・カーブをドラッグして、バックアップ・セットの空のTUNING CURVESの場所へドロップします。
- 5 一度に複数のアイテムを選択してドラッグすることができます。
  - リストの中で、2つのアイテムの間に表示されているアイテムすべてをまとめて選択する場合、最初のアイテムを選択してクリックし、**Shift**キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。
  - 連続していない複数のアイテムを選択する場合、Windowsでは**Ctrl**キーを押しながらアイテムをクリックします。Macでは**Command**キーを押しながらアイテムをクリックします。
- 6 ドラッグ&ドロップの代わりに、「Copy」、「Cut」と「Paste」アイコンをクリックして、データをコピー・アンド・ペーストする方法や、該当するメニュー・コマンドを選択する方法もあります。
- 7 「Save」または「Save as」アイコンをクリックして、新しいバックアップ・セットをディスクに保存します。

## バックアップ・セットのデータを内蔵メモリーへコピーする

バックアップ・セットのフェイバリット・サウンドとユーザー・チューニング・カーブをSV-2の内蔵メモリーへコピーすることができます。サウンドは、フェイバリットにのみペーストできます。

- 1 **Backup**ページへ進みます。
- 2 「Open」アイコンをクリックして、バックアップ・セットをディスクから開きます。
- 3 バックアップ・セットからサウンドをドラッグしてサイド・パネルの**Favorites**リストへドロップします。
- 4 バックアップ・セットからユーザー・チューニング・カーブをドラッグして、サイド・パネルの**Curves**リストへドロップします。
- 5 一度に複数のアイテムを選択することができます(前ページ参照)。または、ツール・アイコンやメニュー・コマンドを使って、アイテムをコピーしたり移動することができます。

**警告:** バックアップ・セットからデータを転送すると、SV-2のメモリーの内容がすべて書き替わり、元にあったデータは削除されます。大切なデータは、必ずバックアップしてください。

## 複数のバックアップ・セットからサウンドを選ぶ

別のバックアップ・セットからデータをコピーして、新しいバックアップ・セットを作成することができます。

- 1 新しいバックアップ・セットを、前述の手順で作成します(これをBackup Set Aとします)。
- 2 「Open」アイコンをクリックして、2番目のバックアップ・セットをディスクから開きます。新しいタブでセットが開きます(これをBackup Set Bとします)。
- 3 Backup Set Bから目的のアイテムを選択し、「Copy」アイコンをクリックしてコピーします。
- 4 Backup Set Aへ戻ります(エディット中のセット)。
- 5 コピー先を選択して「Paste」アイコンをクリックし、Backup Set Bの中のアイテムをBackup Set A(エディット中のセット)の中へペーストします。
- 6 「Save」または「Save as」アイコンをクリックして Backup Set A をディスクへ保存します。

## フェイバリット・サウンドの順序を変更する

SV-2に内蔵されているフェイバリット・サウンドの順序を変えることができます。サウンドの並んでいる順番が好きではない、あるいはあまり使わないサウンドをもっと使い勝手の良いサウンドと置き替えたい、という場合に、自分用のセット・リストを作成することをお勧めします。

- 1 サイド・パネルの**BACKUP ALL DATA**ボタンをクリックして新しいバックアップ・セットを作成し、そのセットの保存先となるコンピューターのディスクの場所を選択します。分かりやすいように名前をつけます。
- 2 **Backup**ページへ進み、今作成したバックアップ・セットを開きます。
- 3 思いどおりにエディットしてください。フェイバリット・サウンドを移動させたり、いくつかを削除したり、別のバックアップ・セットからサウンドをロードしたりします。
- 4 エディットしたバックアップ・セットを保存します。「Save as」アイコンを選択し、新しい名前を付けて、前のバージョンをバックアップとして残しておくことをお勧めします。
- 5 エディットが終わったら、アイコンをクリックし、新しいバックアップ・セットをSV-2のメモリーへコピーしてください。

**警告:** バックアップ・セットを転送すると、SV-2のメモリーの内容がすべて書き替わり、元にあったデータは削除されます。データのバックアップは必ず残しておいてください(この手順の最初で最初のバックアップを上書きしていなければ、データは残っています)。

- 6 SV-2の中のデータは変更され、お気に入りのセットに置き替わります。

**ヒント:** バックアップ・ファイルを作成せずに、簡単にフェイバリット・サウンド・エリアとサイド・パネルの間でアイテムを交換することもできます。バックアップ・ファイルを作成することで、上書きされたデータを復元することができます。

# メニュー

メニュー・バーからコマンドにアクセスし、コンピューター上のデータを管理したりデータをSV-2に転送することができます。

## Fileメニュー

このメニューにはデータを管理するためのコマンドが含まれています。

### New

新しい空のバックアップ・セットを作成します。複数のセットを同時に開き、別々のタブに各セットを表示します。

### Open

ディスクから既存のバックアップ・セットを開きます。すでに1つのセットがタブで開かれている場合は、新しいタブを開きます。

### Save

選択しているタブのバックアップ・セットを保存します。初めて保存する場合、保存場所と名前を指定するようメッセージが表示されます。

### Save As...

選択しているタブのバックアップ・セットの保存場所を指定し、名前をつけて保存します。

### Close

選択しているバックアップ・セットを閉じます。変更内容を保存していない場合、保存するか削除するかを問うメッセージが表示されます。名前の横の小さなボックスをクリックしてタブを閉じることもできます。

### Transmit

選択しているバックアップ・セットをSV-2へ転送します。

**警告:** バックアップ・セットを転送すると、SV-2のメモリーの内容がすべて書き替わり、元にあったデータは削除されます。大切なデータは、必ずバックアップしてください。

### Quit

SV-2 Editorを終了します。変更内容を保存していない場合、保存するか削除するかを問うメッセージが表示されます。



## Editメニュー

このメニューでエディターのデータを管理することができます。

### Cut

バックアップ・セットやサイド・パネルのCurveリストからでもカットすることができます。領域の一部が空になるのを防ぐため、Favoriteリストからカットすることはできません。

### Copy

選択したアイテムを元の場所から移動させずに、クリップボード・メモリーへコピーします。バックアップ・セットやサイド・パネルのどのリストからでもコピーすることができます。

### Paste

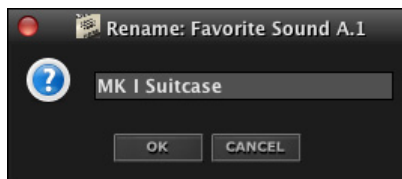
クリップボード・メモリーからカットまたはコピーしたアイテムを、バックアップ・セットまたはサイド・パネルのフェイバリットやカーブ・リストの選択した保存先へペーストします。

### Delete

選択したアイテムをバックアップ・セットから削除します。領域の一部が空になるのを防ぐため、Favoriteリストからカットすることはできません。

### Rename

Backupページでのみ可能です。このコマンドを選択してRenameダイアログを開き、選択したサウンドに名前を付けます。



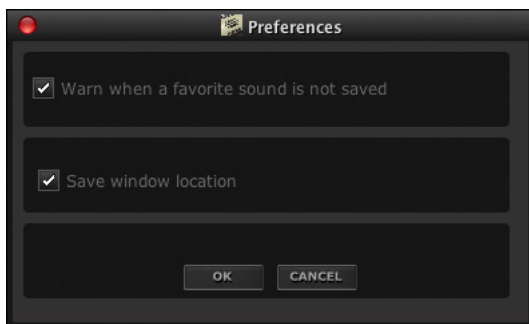
代わりに、サウンドの名前をダブルクリックしてこのダイアログを開けることもできます。

## Optionメニュー

このメニューには環境設定コマンドが含まれています。

### Preferences

このコマンドを選択すると、Preferenceダイアログが開きます。



#### Warn when a favorite sound is not saved

このチェックボックスにチェックすると、選択しているサウンドやフェイバリットの変更を保存せずに、別のサウンドまたはフェイバリットを選択すると、警告メッセージが表示されます。

#### Save window location

このチェックボックスにチェックすると、ウインドウの状態が記憶され、次回SV-2 Editorを起動したときに、前回の表示が再現されます。

## Aboutメニュー

SV-2のオペレーティング・システムとエディターのバージョンについての情報が表示されます。

### Info

著作権情報、SV-2 OSバージョンとSV-2 Editorバージョンが記載されています。



## キーボード・ショートカット

この表は各メニュー・コマンドに対応するショートカットを示します。

コマンド	ショートカット	
	Windows	Mac
<b>Fileメニュー</b>		
New	Ctrl-N	Cmd-N
Open	Ctrl-O	Cmd-O
Save	Ctrl-S	Cmd-S
Save As...	Ctrl-Shift-S	Cmd-Shift-S
Close	Ctrl-W	Cmd-W
Transmit	Ctrl-T	Cmd-T
Quit	Ctrl-Q	Cmd-Q
<b>Editメニュー</b>		
Cut	Ctrl-X	Cmd-X
Copy	Ctrl-C	Cmd-C
Paste	Ctrl-V	Cmd-V
Delete	Del	Del
Rename...	Ctrl-R	Cmd-R
<b>Optionメニュー</b>		
Preferences...	-	-
<b>Aboutメニュー</b>		
Info...	-	-

# 付録

# プログラム

以下のリストには、Soundページから選択可能な、音作りのためのプログラムが含まれています。

## Electric Piano

### Tine

Mk I Suitcase	Wurly Classic
Mk I Stage	Pure Wurly Line
Mk II Stage	Pure Wurly Mic
Mk II Suitcase	Wurly RX 1
Mk V Stage	Wurly RX 2

### FM

Mk V Bright	FM El. Piano 1
Hard Dyno EP	FM El. Piano 2
Soft EP	FM El. Piano 3
Pure Mk II Stage	FM El. Piano 4
Pure Mk II Suit.	FM El. Piano 5
Mk II Line RX	FM El. Piano 6
Mk II Mic RX	FM El. Piano 7
EP Noise RX	FM El. Piano 8

### Reed

Wurly Line	FM El. Piano 9
Wurly Mic	FM El. Piano 10
Wurly Mic R	FM El. Piano 11
Wurly Mic L	Dark FM EP
	Hybrid Glass EP

### Soft FM EP

FM & Pad

### Electronic

Rubber EP  
Plecta Hybrid  
Pianet N  
Pianet T  
Pianet RX

### Legacy

Vintage EP 1  
Vintage EP 2  
Vintage EP 3  
Hard Tine EP 1  
Hard Tine EP 2  
EP + Res.  
Soft Dyno EP 1  
Soft Dyno EP 2  
Hard Dyno EP 1  
Hard Dyno EP 2

### Belly EP

EP & Glock

Wurly 1  
Wurly 2  
Wurly 3  
Wurly 4  
Wurly 5  
FM E.Piano 1  
FM E.Piano 2  
FM E.Piano 3  
FM E.Piano 4  
FM E.Piano 5  
FM E.Piano 6  
Pianet 1  
Pianet 2  
Pianet 3

## Acoustic Piano

### Grand

Hamburg Grand	Japan Jazz
Italian Grand	Austrian Classic
Japan Grand	Austrian Jazz
Austrian Grand	Rock Piano
Hamburg No Res	Hamburg RX
Italian No Res	Italian RX
Japan No Res	Japan RX
Austrian No Res	Austrian RX
Hamburg Classic	It.Grand & Stack
Hamburg Jazz	Grand & FM Stack
Italian Classic	Grand & Strings
Italian Jazz	Piano-EP Stack
Japan Classic	Piano-Syn Stack
	Midi Grand&Pad

### Hamburg Mono

Italian Mono  
Japan Mono  
Austrian Mono  
Hamburg RX Mono  
Italian RX Mono

### Upright

Japan Upright  
German Upright  
Japan Upr. Bright  
Japan Upr. Dark  
Japan Upr.DarkDet  
Japan Upright Det  
Japan Honky

Jap. Upr. No Res  
Saloon Piano  
Germ.Upr. Bright  
Germ.Upr. Dark  
Germ.Upr.DarkDet.  
Germ.Upr. Det.  
German Tack  
Honky Tonk  
Japan Upr. Mono  
Japan Upr. RX  
Jap. Upr. RX Mono  
**Electric Grand**  
Elect. Grand 80  
Elect.Gr.80 NoRes

**Electronic**

Korg M1 Piano  
Grand&DigitBody  
Korg SG-1D  
80's Synth Piano  
ElectraPiano

**Legacy**

Grand Piano 1  
Grand Pno1 BigRes  
Grand Pno1 NoRes  
Grand Pno 1 Mono  
Grand Pno 1 RX  
Grand P. 1 MonoRX

Grand Piano 2  
Grand Pno2 Bright  
Grand Pno2 NoRes  
MIDI Grand  
Piano&FM PAD  
Grand Pno 2 RX  
Upright Piano

Upright PnoBright  
Saloon Upright  
Elect. Grand 70  
M1 Dance  
ElectraPiano Brit

**Clavier**

**Clav**

Clav AC Det  
Clav AD Det  
Clav BC Det  
Clav BD Det.  
Clav AC  
Clav AD  
Clav BC

Clav BD  
SV1 Muted Clav  
SV1 Clav Treble  
SV1 Clav Medium  
SV1 Clav Bright  
SV1 Clav Brilliant  
Clav RX

**Harpsichord**

Harpsichord  
Harpsichord 8+4'  
Harpsi Stereo

**Legacy**

SV1 Clav AC  
SV1 Clav BC  
SV1 Clav BC Soft

SV1 Clav BD  
SV1 Clav BD Soft  
SV1 Clav AD Soft  
SV1 Clav BC  
SV1 Clav AC Soft  
SV1 Clav AD

**Organ**

**Tonewheel**

Click Organ  
Basic Organ  
Jazz Organ  
Full Organ 1  
Dark Organ  
Clean Organ  
Gospel Organ  
Amped Organ  
Jimmy Organ  
Org.Perc.2 2/3'  
Org.Perc. 4'  
Organ Leakage

US Organ  
Italian Organ  
Vox Organ  
US Organ RX  
Italian Organ RX

**Church**

Tutti A  
Tutti B  
Sesquialtera  
Plenum A  
Plenum B  
Plenum C  
Plenum D  
Plenum E  
Pipe Cornet

Viola+Cornet  
Principal 8'  
Pipe Flute 8'  
Gamba 8'  
Trumpet Pipes  
Pipe Octave  
Pipe Super Oct.  
Pipe Fifth  
Principal+Flute  
Nazard A  
Nazard B  
Flute8'+Flute4'  
Flute8'+Flute2'  
Gamba+Flute  
Celeste

Terziana  
Larigot  
**Legacy**  
UltraDark Organ  
Rock Organ  
Perc. Organ 2 2/3

Full Organ 2  
Full Organ 3  
Dirty Organ  
Mixed Organ  
Ballad Organ  
Dist. Organ  
Org.Perc.2 2/3Lek  
Pipe Organ

**Electronic**

Elect. Organ

**Orchestra**

**Strings Ensemble**

Real Strings  
Cinematic Ens.  
Ballad Strings  
Soft Strings  
Soft Ballad Strng

BriteBallad Strng  
String Ensemble  
Tape Strings 1  
Solina Strings  
**Classic Ensemble**  
Real Quartet 1

Real Quartet 2  
Classic Harp  
Real Pizzicato  
Orchestra/Vocal  
Full Choir  
Hmm Choir

Closed Mouth  
Synth Voices  
Soprano Choir  
Fresh Breath  
Heaven

**Brass/Woodwind**

Swing Horns  
Ballade Brass  
Tight Brass 1  
Tight Brass 2  
French Section  
French Horns  
Soft Horns  
Sax Ens. Legato

**Mallets**

Vibraphone  
Marimba  
Xylophone  
Celesta  
Orgel  
Glockenspiel  
**Full/Tutti**  
Movie Action  
OrchestraTutti

**Legacy**

Strings 1  
Strings 2  
Strings 3  
Strings 4  
Strings 5  
Strings 6  
Strings 7  
Strings 8  
Tape Strings 2

Tape Strings 3  
Tape Strings 4  
Choir 1  
Choir 2  
Choir 3  
Choir 4  
Choir 5  
Choir 6

**Synth****Pad**

Dark Pad  
80's Mellow  
80's Super Pad  
Symphonic Ens.  
Matrix 12 Pad  
Big Panner  
Air Clouds  
Vintage Sweep  
Super Sweep  
Fresh Air  
Pods In Pad  
G.P. Stack  
Ghost Pad

**Brass**

JP8  
Poly6 + JP8  
Polysix  
Polysix & Sub

FatSynth OctSub

**Lead**

Next Dance  
Trance Filter  
Vintage Monster  
Dance Basic  
EDM Synth  
Square Solo  
Triangle Solo  
Saw Solo  
Square & Pulse  
Rich Lead  
16-8-4 & Sub32  
PolySaw Detune  
PolySaw 2 Oct.  
PolySaw 3 Oct.  
Power Saw  
OB Lead  
Big & Raw

Synth Pianoid

**Bass**

Bass Phat Saw  
Robert Bass  
Fifth Bass  
**Fantasy**  
Evolving Pad  
Rhythmsphere  
Far Memories  
Jurassic Pad  
Moon Cycles  
Movie Stack  
Eastern Depths  
Aerosonic  
My Sequencer  
Halo  
Metallic Pad  
Blend  
Blend+Sub

Sub Synth  
Nature Pad  
Pad Sequence  
**Legacy**  
Warm Pad  
Classic Pad  
Pad & Voices  
Pad & Strings  
SoliStrings Dark  
SoliStrings Brigh  
Analog Pad  
Analog Strings  
Obscure Pad  
Soft SynBrass  
Synth Brass  
Jump Brass  
Reso Synth  
Sine Lead  
Saw Lead

**Guitar****Acoustic Guitar**

Nylon Guitar  
Concert Guitar  
Natural Steel  
Acoustic Steel

**Acoustic Bass**

Upright Bass  
Upright & Ride 1  
Upright & Ride 2

**Electric Bass**

JB Finger Bass  
JB Finger Slap  
JB Slap Bass  
JB Fretless Bass  
Stein Bass

**Legacy**

Double Bass  
Electric Bass  
Fretless Bass



# 保存される設定とその保存先

以下の表には、どの設定がどこに保存されているか、また本機の電源をオフにしたときにどの設定がリセットされるかが記載されています。

Parameter	Sound	Global	Reset
Master Tune		✓	
Master Transpose			✓
Tuning Curve	✓		
Program Levels	✓		
Split Point	✓		
Touch Curve	✓		
MIDI Channel		✓	
Local Off			✓
Pedal Calibration		✓	
Auto Power Off		✓	

# 故障かな?とお思いになる前に

故障の疑いがある場合は、以下の項目をまず最初にチェックしてください。問題が解決しないときは、販売店またはコルグ・ディストリビューターへお問い合わせください。

症状	対策
本機の電源が入らない	電源コードが損傷していないこと、電源コードがSV-2とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
音が出ない	SV-2のボリュームが0になっていないことを確認してください。0になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。 ボリューム/エクスペッション・ペダルが最小に設定されていないかを確認してください。 SPEAKERがオンに設定されていないかを確認してください (SV2-73S、SV2-88Sのみ)。 Local Off機能がオフになっていることを確認してください。オンになっている場合はオフにしてください。 ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホン端子に正しく接続されていることを確認してください。 ノブの設定が以下のようになっていないことを確認してください。 ・Pre-FX Comp: Intensity = 0 ・Pre-FX Boost: Intensity = 0 ・Amp Models: Drive = 0
音が途切れることがある	XLR端子で接続しているときは、両方の端子が接続されていることを確認してください。XLR端子はモノラルで出力することができません。
音が小さい	真空管が消耗した可能性があります。コルグお客様相談窓口にお問い合わせください。
音声にノイズが混ざっている	コードが長過ぎる、ステージ上の別のデバイスの干渉を受けている、などが考えられます。XLRケーブルを使用してください。 アンプ・モデルを使用しているときは、アンプ回路の自然なノイズが聞こえることがあります。

## 仕様

<b>仕様</b>	<b>SV-2</b>
<b>鍵盤</b>	
鍵盤	<b>SV2-73/SV2-73S:</b> 73鍵、 <b>SV2-88/SV2-88S:</b> 88鍵ベロシティ・センシティブ、コルグRH3 (Real Weighted, Hammer Action 3)
タッチ・コントロール	8種類のタッチ・カーブ
チューニング	トランスポーズ、ファイン・チューニング、チューニング・カーブ
<b>サウンド</b>	
音源	EDS-X (Enhanced Definition Synthesis – eXpanded)
同時発音数	128音(最大)
マルチ	レイヤー、スプリット
ファクトリー・サウンド	72ファクトリー・サウンド(6ベース・サウンドx2セット6/バリエーション)
フェイバリット・サウンド	64フェイバリット・サウンド(8バンクx8/バリエーション)保存用
<b>エフェクト</b>	
イコライザー	Bass, Mid, Treble
プリ・エフェクト	Red Compressor, Treble Boost, U-Vibe, Vibrato, Tremolo, VoxWah (ペダル・コントロール)
アンプ・モデル	Clean, Twin, Tweed, AC30, Boutique, Organ Amp Valve Reactor回路—真空管12AX7 (ECC83)を含むキャビネット・モデル
モジュレーション	Classic Chorus, Black Chorus, Orange Phaser, Small Phaser, FX Flanger, Rotary (スロウ/ファースト・コントロール)
アンビエント	Room, Plate, Hall, Spring, Tape Echo, Stereo Delay (タップ・テンポ)
トータル・エフェクト	ステレオ・マスタリング・リミッター、ステレオ・リミッター
<b>その他のコントロール</b>	
ボリューム	MASTER VOLUMEノブ
パネル・スイッチ	TRANSPOSE, LOCAL OFF, TOUCH, FUNCTION
デモ	72 デモ・ソング(ファクトリー・サウンドごとに1曲ずつ)
<b>接続</b>	
MIDI	IN, OUT
ヘッドホン	HEADPHONES (6.3mmステレオ・フォーン端子)
オーディオ出力	L, R (XLR:バランス) L/MONO, R/MONO (6.3mmフォーン端子:アンバランス)
オーディオ入力	L/MONO, R/MONO (6.3mmフォーン端子:アンバランス)
USB	USB 2.0 Hi-Speed、タイプBコネクター (MIDIインターフェイスと兼用)

Damper Pedal	コルグDS-2H(付属)
Pedal 1	フット・スイッチ (例:別売りコルグPS-1、PS-3)
Pedal 2	ボリューム/エクスプレッション (例:別売りコルグXVP-20、EXP-2)、またはフット・スイッチ (例:別売りコルグPS-1、PS-3)
<b>アンプ (SV2-73S、SV2-88Sのみ)</b>	
スピーカー	2.5インチ x 2、3インチ x 2 パッシブ・ラジエーター付き
パワー・アンプ	15W x 2
<b>一般</b>	
電源	AC 100V、50-60Hz
消費電力	スピーカー非搭載モデル: 16W スピーカー搭載モデル: 25W
外形寸法 (W x D x H) (譜面立てを除く)	<b>SV2-73/SV2-73S:</b> 1,143 x 347 x 157 mm <b>SV2-88/SV2-88S:</b> 1,356 x 347 x 157 mm
質量 (譜面立てを除く)	<b>SV2-73:</b> 17.2 kg / <b>SV2-73S:</b> 18.3 kg <b>SV2-88:</b> 20.35 kg / <b>SV2-88S:</b> 21.45 kg
<b>その他</b>	
付属品	電源コード、クイック・ガイド、譜面立て、ダンパー・ペダル(コルグDS-2H)
アクセサリ (別売り)	ST-WL、ST-SV1-BKピアノ・スタンド、DS-1Hダンパー・ペダル、XVP-10、XVP-20、EXP-2ボリューム/エクスプレッション・ペダル、PS-1、PS-3 フット・スイッチ、CB-SVキャリング・バッグ

\*仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。



ファンクション...	送信	受信	備考
電源ON時	1-16	1-16	記憶される
チャンネル	1-16	1-16	
モード	3	3	
メッセージ	X	X	
代用	*****		
ノート	21-108 / 28-100	0-127	21-108 (SV2-88/SV2-88S) / 28-100 (SV2-73/SV2-73S)
ナンバー	*****	0-127	全音域を発音できない音色あり
ペロシタイ	0 9n, V=1-127	0 9n, V=1-127	
	0 8n, V=0-127	0 8n, V=0-127	
アフタータッチ	X	O	
	X	O	
チャンネル別	X	O	
ピッチ・ベンド			
	0, 32	O	バンク・セレクト (MSB, LSB) *1
	1, 2	X	モジュレーション, プレス *2
	6, 38	X	データ・エントリー (MSB, LSB)
	7	X	ボリューム
	11	O	エクスプレッション *2
コントロール	64, 66, 67	O	ダンパー, ソステヌート, ソフト
チェンジ	100, 101	X	ファイน์・チューン, コース・チューン *3
	102-107	O	EQ, Pre FX, Amp, Mod, Ambient, Total FX On/Off

プログラム チェンジ	設定可能範囲	00-71 / 0-63 *****	00-71 / 0-63 0-71 / 0-63	フアクトリー・サウンド: 0-71, フェイバリット・ サウンド: 0-63
エクスクルーシブ		O	O	*4
コモン	ソング・ポジション	X	X	
	ソング・セレクト	X	X	
	チューン	X	X	
リアルタイム	クロック	X	X	
	コマンド	X	X	
その他	ローカル On/Off	X	O	
	オール・ノート・オフ	O	O (123-125)	
	アクティブ・センシング	O	O	
	システム・リセット	X	X	
備考		*1: LSB = 00: フアクトリー・サウンド, LSB = 64: フェイバリット・サウンド; MSB は 0 固定。 *2: ペダル・ワウを選択した場合、PEDAL 2端子のボリューム/エクスプレッション・ペダルは CC#2、それ以外では CC#11 でコントロール。 *3: ソステナートは、Rotary が選択されている場合、Rotary Slow/Fast をコントロール。 *4: デバイス・インクワイリー、マスター・ファインチューン、マスター・コースチューンに対応。		

Mode 1: OMNI ON, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO

O: Yes

Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 4: OMNI OFF, MONO

X: No







# KORG

**Address**

KORG ITALY SpA  
Via Cagiata, 85  
60027 Osimo (AN)  
Italy

**Web**

[www.korg.com](http://www.korg.com)